

# SPARC T8-4 サーバー設置ガイド

ORACLE®

Part No: E91842-01  
2017 年 9 月



## Part No: E91842-01

Copyright © 2017, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクル およびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

### ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility ProgramのWeb サイト(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>)を参照してください。

### Oracle Supportへのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Supportを通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info>)か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>)を参照してください。



# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	9
製品ドキュメントライブラリ .....	9
フィードバック .....	9
サーバーについて .....	11
設置タスクの概要 .....	11
サーバーの概要 .....	12
フロントパネルのコンポーネント .....	14
背面パネルのコンポーネント .....	15
仕様の確認 .....	17
物理仕様 .....	17
電気仕様 .....	18
環境要件 .....	19
通気に関する注意事項 .....	20
設置の準備 .....	23
出荷用キット .....	23
取り扱い上の注意 .....	25
ESD に関する注意事項 .....	25
設置に必要な工具 .....	26
▼ サーバーを準備する .....	27
サーバーの設置 .....	29
ラックの互換性 .....	30
ラックに関する注意事項 .....	30
▼ ラックを固定する .....	32
ラックマウントキットの設置 .....	33
ラックマウントキットの概要 .....	33

▼ 正しいラックマウント部品を選ぶ .....	35
▼ ラックの取り付け位置を決める .....	35
▼ シェルフレールを取り付ける .....	37
▼ サーバーを設置する .....	38
CMA の取り付け (オプション) .....	40
CMA キットの概要 .....	41
▼ CMA を取り付ける .....	42
出荷用ブレース部品の取り付け (オプション) .....	44
出荷用ブレースの概要 .....	44
▼ 正しい出荷用ブレースねじを特定する .....	46
▼ 上部背面の出荷用ブレースを取り付ける .....	46
▼ 下部背面の出荷用ブレースを取り付ける .....	48
▼ 下部背面の出荷用ブレースを取り外す .....	49
<b>ケーブルの接続</b> .....	<b>51</b>
配線の要件 .....	51
ポートの識別 .....	53
USB ポート .....	53
SER MGT ポート .....	54
NET MGT ポート .....	55
Ethernet ポート .....	56
VGA ポート .....	57
データケーブルおよび管理ケーブルの接続 .....	58
▼ SER MGT ケーブルを接続する .....	58
▼ NET MGT ケーブルを接続する .....	59
▼ Ethernet ネットワークケーブルを接続する .....	60
▼ その他のデータケーブルを接続する .....	61
▼ CMA を使用してケーブルを固定する .....	61
<b>サーバーへのはじめての電源投入</b> .....	<b>65</b>
▼ 電源コードを準備する .....	65
▼ シャーシのアース線を接続する .....	66
▼ SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する .....	67
▼ はじめてサーバーに電源投入する .....	69
Oracle ILOM システムコンソール .....	70
OS のインストール .....	71
▼ プリインストールされている OS を構成する .....	71
▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI) .....	72

---

▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタ フェース) .....	74
Oracle Solaris OS の構成パラメータ .....	76
静的 IP アドレスの SP への割り当て .....	77
▼ SP にログインする (SER MGT ポート) .....	77
▼ 静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる .....	78
自動サービスリクエストソフトウェア .....	80
関連情報 .....	80
用語集 .....	81
索引 .....	87





## このドキュメントの使用方法

---

- **概要** – Oracle の SPARC T8-4 サーバーの仕様、およびサーバーをはじめて設置して電源を投入する方法について説明します。
- **対象読者** – 技術者、システム管理者、および認定サービスプロバイダ
- **必要な知識** – データセンター装置の設置と構成に関する豊富な経験

## 製品ドキュメントライブラリ

この製品および関連製品のドキュメントとリソースは <http://www.oracle.com/goto/t8-4/docs> で入手可能です。

## フィードバック

このドキュメントに関するフィードバックを <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。



## サーバーについて

---

これらのトピックでは、設置タスクのリストを示し、SPARC T8-4 サーバーの概要を提供し、重要なコンポーネントについて説明します。

- [11 ページの「設置タスクの概要」](#)
- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

### 関連情報

- [29 ページの「サーバーの設置」](#)
- [51 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

## 設置タスクの概要

これらのタスクを実行して、サーバーの設置と構成を行います。

手順	説明	リンク
1.	『プロダクトノート』でサーバーの最新の情報について確認します。	<a href="#">"SPARC T8 シリーズサーバープロダクトノート"</a>
2.	サーバーの機能、仕様、および設置場所の要件を確認します。	<a href="#">12 ページの「サーバーの概要」</a> <a href="#">17 ページの「仕様の確認」</a>
3.	注文したすべてのアイテムを受け取ったことを確認します。	<a href="#">23 ページの「出荷用キット」</a>
4.	設置に必要なサーバーの機能、コントロール、LED について学びます。	<a href="#">14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」</a> <a href="#">15 ページの「背面パネルのコンポーネント」</a>
5.	安全対策と ESD 対策を採り、必要な工具を組み立てます。	<a href="#">25 ページの「取り扱い上の注意」</a>

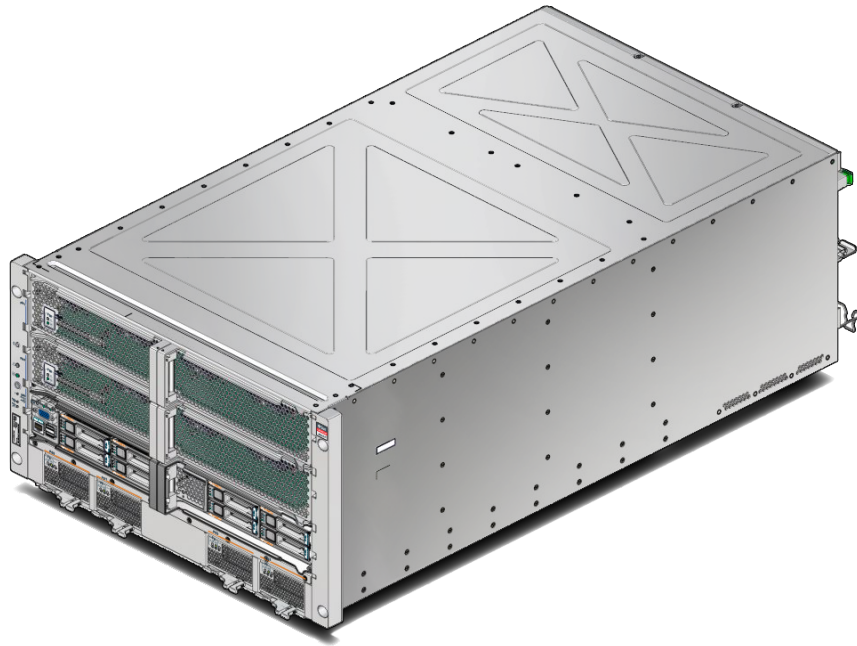
手順	説明	リンク
		<a href="#">25 ページの「ESD に関する注意事項」</a>
		<a href="#">26 ページの「設置に必要な工具」</a>
6.	サーバーをラックに設置します。	<a href="#">29 ページの「サーバーの設置」</a>
7.	データケーブルと管理ケーブルをサーバーに接続します。	<a href="#">51 ページの「ケーブルの接続」</a>
8.	電源コードをサーバーに接続し、Oracle ILOM SP を構成し、サーバーにはじめて電源を入れ、オペレーティングシステムを設定します。	<a href="#">65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」</a>

### 関連情報

- ["SPARC T8 シリーズサーバープロダクトノート"](#)
- [SPARC T8-4 サーバーの安全およびコンプライアンスに関するガイド](#)
- [SPARC T8 シリーズサーバー管理ガイド](#)
- [SPARC T8-4 サーバーサービスマニュアル](#)

## サーバーの概要

このトピックでは、サーバーの主要なコンポーネントおよび機能の概要を説明します。

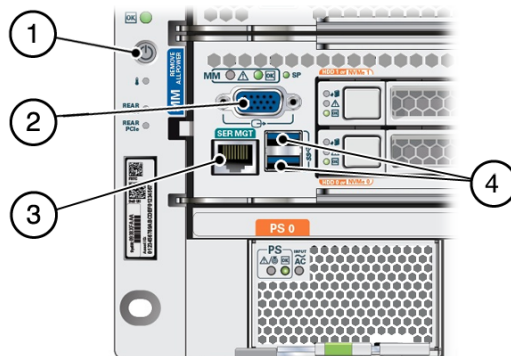


コンポーネント	説明
シャーシ	6RU フォームファクタのラックマウント可能なサーバー
CPU	4x SPARC M8、32 コアのチップマルチプロセッサ (CMP)
メモリー	DDR4 DIMM スロット x 64。64G バイトの DIMM を上限まで取り付けられたサーバーは、最大 4T バイトのシステムメモリーをサポートします。
I/O 拡張	16 個の PCIe Gen3 カードスロット: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 8 個の PCIe Gen3 x8 電氣的インタフェース</li> <li>■ 8 個の PCIe Gen3 x16 電氣的インタフェース</li> </ul>
ストレージデバイス	内蔵ストレージの場合、サーバーは次を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2.5 インチハードドライブ 8 基 (フロントパネル)</li> <li>■ 背面 I/O モジュールにある内蔵 eUSB ドライブ</li> </ul>
ポート	外部 USB 3.0 ポート x 4 (前面 x 2、背面 x 2)
ビデオポート	高密度 HD-15 ビデオポート x 2 (前面 x 1、背面 x 1)
管理ポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ RJ-45 SER MGT ポート x 2 (前面 x 1、背面 x 1)</li> <li>■ 100/100/1000 NET MGT ポート 1 基 (背面)</li> </ul>
ネットワークポート	10GbE 100M ビット/秒、1G ビット/秒、10G ビット/秒 x 4 (背面)
電源装置	ホットスワップ対応 AC 3000W 冗長電源 x 4 (2 + 2) (前面)
ファンモジュール	ホットスワップ対応冗長ファンモジュール 5 基 (N+1) (背面)
SP	Oracle Integrated Lights Out Manager (Oracle ILOM)

## 関連情報

- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [SPARC T8-4 Server Service Manual](#)
- [Oracle ILOM のドキュメント](#)

## フロントパネルのコンポーネント



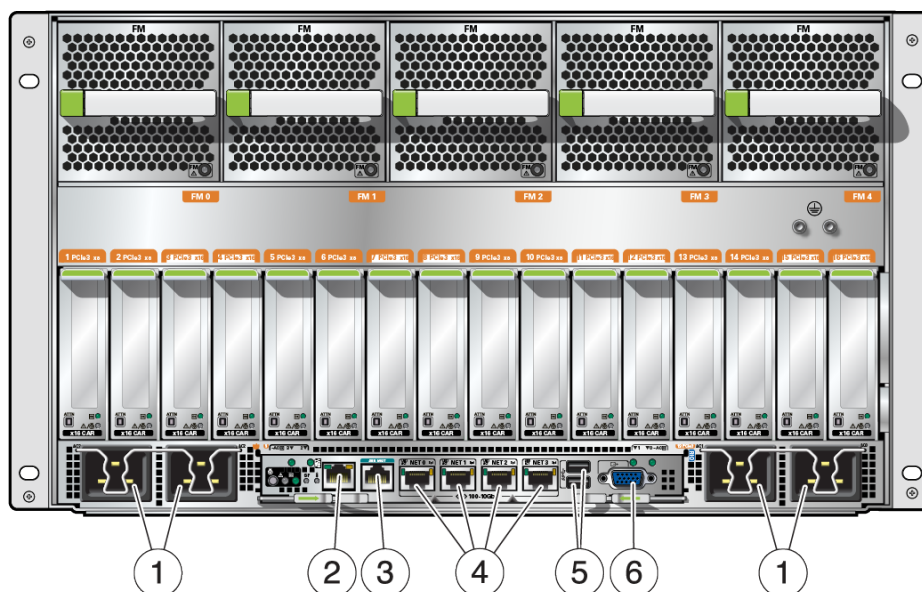
番号	説明
1	電源ボタン
2	VGA ポート
3	SER MGT ポート
4	USB 3.0 ポート

## 関連情報

- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)

## 背面パネルのコンポーネント

注記 - サーバーへのケーブルの接続は、適切な順序で実施する必要があります。電源コードは、データケーブルをすべて接続するまでは接続しないでください。



番号	説明	リンク
1	電源ユニット AC 入力 (4)	
2	NET MGT RJ-45 ネットワークポート	<a href="#">55 ページの「NET MGT ポート」</a>
3	SER MGT RJ-45 シリアルポート	<a href="#">54 ページの「SER MGT ポート」</a>
4	ネットワーク 10GbE 10GbE 100M ビット/秒、1G ビット/秒、10G ビット/秒ポート: NET 0 — NET 3 (4)	<a href="#">56 ページの「Ethernet ポート」</a>
5	USB 3.0 ポート (2)	<a href="#">53 ページの「USB ポート」</a>
6	VGA ポート	<a href="#">57 ページの「VGA ポート」</a>

### 関連情報

- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [40 ページの「CMA の取り付け \(オプション\)」](#)
- [61 ページの「CMA を使用してケーブルを固定する」](#)



## 仕様の確認

---

これらのトピックでは、サーバーの設置に必要な技術情報と通気に関する注意事項について説明します。

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [19 ページの「環境要件」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [23 ページの「出荷用キット」](#)
- [53 ページの「ポートの識別」](#)

## 物理仕様

説明	メートル法	アメリカ
ラックユニット	6 RU	6 RU
高さ	266.7 mm	10.5 インチ
幅	445 mm	17.5 インチ
奥行き	835 mm	32.9 インチ
重量 (ラックマウントキットを除く)	98.66 kg	217.5 ポンド
保守用最小クリアランス (前面)	914.4 mm	36 in.
保守用最小クリアランス (背面)	914.4 mm	36 in.
通気用最小クリアランス (前面)	50.8 mm	2 in.
通気用最小クリアランス (背面)	76.2 mm	3 インチ
出荷用梱包箱の高さ (パレット上)	610 mm	24 インチ
出荷用梱包箱の長さ	978.4 mm	38.87 インチ

説明	メートル法	アメリカ
出荷用梱包箱の幅	610 mm	24 インチ

### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 25 ページの「取り扱い上の注意」
- 29 ページの「サーバーの設置」
- 18 ページの「電気仕様」
- 19 ページの「環境要件」
- 20 ページの「通気に関する注意事項」

## 電気仕様

これらの仕様は、一般的な計画のガイドとしてのみ使用してください。予期される作業負荷に基づいて電力値を判別するには、次の場所にある SPARC T8-4 電力計算機能を使用してください。

<http://www.oracle.com/goto/powercalculators/>

説明	値
動作入力範囲	200 - 240 VAC、 50/60 Hz
200 VAC 時の最大動作入力電流 (コードあたり)	12.6 A <sup>†</sup>
200 VAC 時の最大動作入力電力	5040 W

<sup>†</sup>実際の消費電流量は定格を 10% 程度まで超える場合があります。

**注記** - 最大動作入力電流の値は、式  $P / (V * 0.90)$  に基づいています (P = 最大動作入力電力、V = 入力電圧)。例:  $620W / (100V * 0.90) = 6.89A$  この式を使用して、入力電圧に対する最大動作電流を計算できます。



**注意** - サーバー付属の電源コードのみを使用してください。

### 関連情報

- 65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」

- 17 ページの「物理仕様」
- 19 ページの「環境要件」
- 20 ページの「通気に関する注意事項」

## 環境要件

このトピックでは、次の仕様について説明します。

- 温度、湿度、および高度
- 衝撃および振動
- 音響

表 1 温度、湿度、および高度の仕様

説明	動作時		非動作時		注記
	メートル法	アメリカ	メートル法	アメリカ	
<b>温度 (最高)</b>	5 - 35° C (900 m で)	41 - 95° F (0 - 3000 ft で)	-40 - 65° C (900 m で)	-40 - 149° F (0 - 3000 ft で)	最大温度の低下: 3000 ft (900 m) を超過、1.8°F/1000 ft (1° C/300 m)
<b>相対湿度</b>	10 - 80% (27° C で)	10 - 80% (81° F で)	最高 85% (38° C で)	最高 85% (100° F で)	最高湿球温度、結露なし
<b>高度</b>	0 - 3000 m (40° C で)	95° F で 0 - 9840 ft	最大 12,000 m	最高 40,000 ft	中国市場では、規制により設置が動作時の最大高度 2000m に制限されることがあります。

表 2 衝撃および振動の仕様

説明	動作時	注記
衝撃	3 G、11 ms	半正弦
振動 (垂直)	0.15 G	5 - 500 Hz (Swept-Sine 法)
振動 (水平)	0.10 G	

表 3 音響仕様

説明	60% での動作時	100% での動作時
音響パワーレベル - LwAd (1 B = 10 dB)	8.7 B	9.9 B
音圧レベル - LpAm (4 バイスタンダ位置のエネルギー平均)	71.2 dBA	82.5 dBA

### 関連情報

- 『SPARC T8-4 Server Safety and Compliance Guide』
- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [18 ページの「電気仕様」](#)
- [20 ページの「通気に関する注意事項」](#)

## 通気に関する注意事項

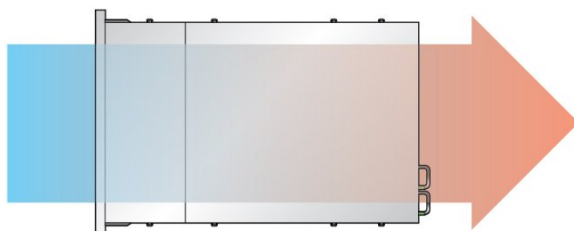


---

**注意** - サーバーの内部温度を安全な動作範囲内に保つためには、適度な通気が不可欠です。

---

通気はサーバーの前面から背面に流れます。



これらのガイドラインに従って、サーバーでの通気が制限されないようにします。

- 通気の最小クリアランスの仕様に従います。[17 ページの「物理仕様」](#)を参照してください。
- サーバーは前面が涼しい通路、背面が暖かい通路に面するように設置してください。
- 暖気をサーバーに向けないでください。
- ラックまたはキャビネット内で空気が再循環しないようにします。
- サーバー内部のコンポーネントを保守するときには、必ずエアダクトとバッフルを適切に取り付けてください。
- 通気を妨げないように、ケーブルを配線してください。

### 関連情報

- [30 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

- 17 ページの「物理仕様」
- 18 ページの「電気仕様」
- 19 ページの「環境要件」



## 設置の準備

---

これらのトピックでは、サーバーの設置に先立って従うべき注意事項、組み立てに必要な工具、および実行するタスクについて詳しく説明します。

手順	説明	リンク
1.	設置で使用するタイプのラックマウントキット用に注文したすべてのアイテムを受け取ったことを確認します。	<a href="#">23 ページの「出荷用キット」</a>
2.	ESD および安全性に関する注意事項を確認します。	<a href="#">25 ページの「取り扱い上の注意」</a> <a href="#">25 ページの「ESD に関する注意事項」</a>
3.	適切な工具があることを確認します。	<a href="#">26 ページの「設置に必要な工具」</a>
4.	設置のためにサーバーを準備します。	<a href="#">27 ページの「サーバーを準備する」</a>

### 関連情報

- [29 ページの「サーバーの設置」](#)
- [51 ページの「ケーブルの接続」](#)
- [65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

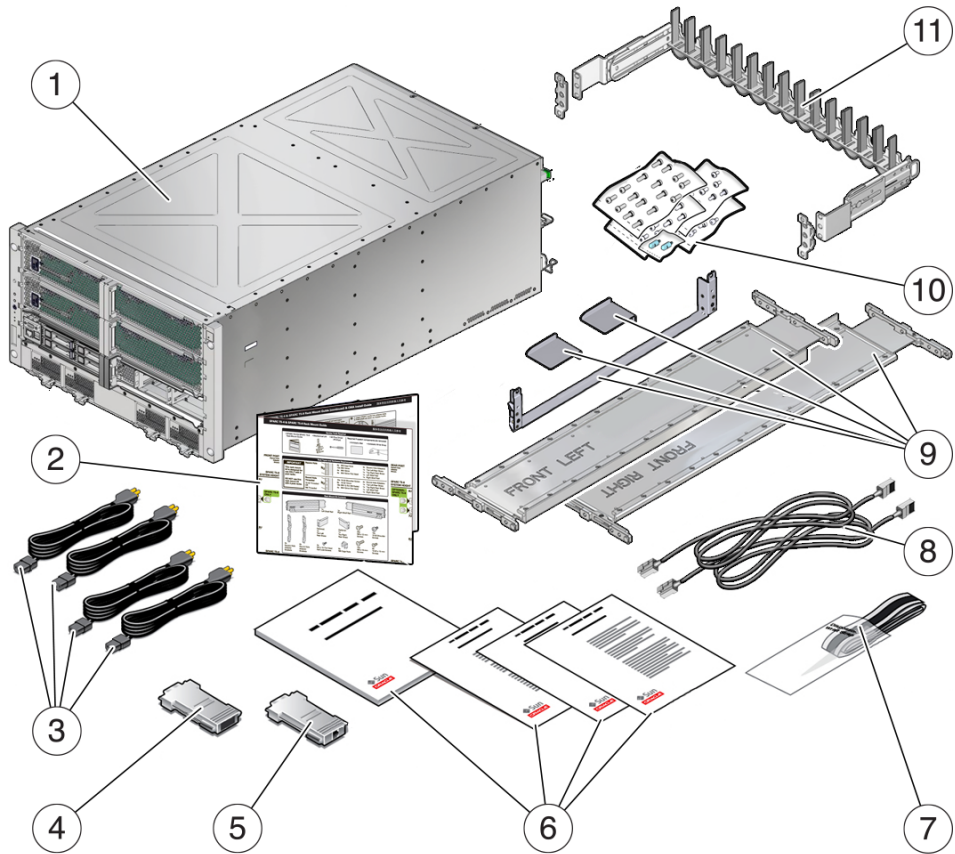
## 出荷用キット

使用するサーバーと一緒に出荷されるコンポーネントがすべて届いていることを確認します。

---

**注記** - サーバーが到着したら、設置する環境にサーバーを置いてください。設置場所で、梱包を解かずにサーバーを 24 時間放置してください。この休止期間によって、温度衝撃および結露を防ぐことができます。

---



番号	説明
1	サーバー
2	ラックバディーツェンプレート
3	AC 電源コード (4)
4	RJ-45/DB-9 クロスアダプタ
5	RJ-45/DB-25 クロスアダプタ
6	印刷物のドキュメント一式
7	静電気防止用リストストラップ
8	Ethernet ケーブル (2)
9	ラックマウントキット
10	ねじ
11	CMA



### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [33 ページの「ラックマウントキットの設置」](#)
- [41 ページの「CMA キットの概要」](#)

## 取り扱い上の注意



注意 - 取り付けを開始する前に、装置ラックに転倒防止バーを設置してください。



注意 - 装置をラックに導入するときは、上が重くなって転倒しないようにするために、常に下から上の順に行なってください。



注意 - リフトを使用せずに 1 人でサーバーを移動しようとししないでください。1 人で設置する場合は、主要なコンポーネントを取り外し、リフトを使用する必要があります。2 人で設置する場合は、主要なコンポーネントを取り外す必要がありますが、リフトはオプションです。



注意 - ラックに装置を取り付ける各手順の開始前、作業中、および作業後に何をやろうとしているかを明確に伝えて、混乱を最小限にしてください。

### 関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [25 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [29 ページの「サーバーの設置」](#)
- [SPARC T8-4 サーバーのスタートガイド](#)

## ESD に関する注意事項

電子機器は、静電気により損傷する可能性があります。サーバーの設置またはサービス時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷を防止してください。



**注意** - 静電気により損傷を受けると、サーバーを永久に使用できなくなったり、サービス技術者による修理が必要になる場合があります。静電気から電子コンポーネントを保護するには、部品を静電気防止マット、静電気防止バッグまたは使い捨ての静電気防止マットなどの帯電防止面に置きます。サーバーコンポーネントを取り扱うときは、シャーシの金属面に接続された静電気防止用アースストラップを着用してください。

---

#### 関連情報

- [25 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [26 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [30 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

## 設置に必要な工具

- T30 トルクスドライバ
- 長いプラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- カッターまたは丈夫なはさみ
- サインペンまたはテープ
- ESD マットおよびアースストラップ
- 油圧式または機械式リフト (2 人で設置する場合はオプション)

さらに、次のいずれかのようなシステムコンソールデバイスを用意する必要があります。

- ASCII 端末
- ワークステーション
- 端末サーバー (初期ブート出力を取得するためのオプション)
- 端末サーバーに接続されたパッチパネル

#### 関連情報

- [25 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [25 ページの「ESD に関する注意事項」](#)
- [SPARC T8-4 Server Service Manual](#)

## ▼ サーバーを準備する



注意 - リフトを使用せずに1人でサーバーを移動しようとししないでください。1人で設置する場合は、コンポーネントを取り外し、リフトを使用する必要があります。2人で設置する場合は、主要なコンポーネントを取り外す必要がありますが、リフトはオプションです。

1. サーバーを箱から取り出します。  
23 ページの「出荷用キット」を参照してください。
2. サーバーからプロセッサモジュール、メインモジュール、電源装置、およびファンモジュールをすべて取り外します。  
詳細な手順については、[SPARC T8-4 Server Service Manual](#)を参照してください。
3. 次に実行するステップを確認します。
  - 1人で設置する場合は、機械式リフトにサーバーを載せてください。
  - 2人で設置する場合は、機械式リフトが使用できればサーバーをその上に載せてください。
4. 取り付ける必要のある PCIe カードがある場合は PCIe カードキャリアを取り外します。  
詳細な手順については、サービスマニュアルを参照してください。
5. ラックにサーバーを取り付けます。  
29 ページの「サーバーの設置」を参照してください。

### 関連情報

- 17 ページの「物理仕様」
- 25 ページの「取り扱い上の注意」
- 25 ページの「ESD に関する注意事項」
- 26 ページの「設置に必要な工具」



## サーバーの設置

---

これらのトピックでは、角型取り付け穴が付いたラックにサーバーを設置する方法を説明します。丸型取り付け穴が付いたラックにサーバーを設置する場合、[35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)を参照してください。

---

**注記** - ラックマウントキットに説明書が付属している場合は、この章の手順ではなくそれぞれの手順を使用してください。サーバーの取り付けを行ったら、[65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)に進んで初回の電源投入を行ってください。

---

手順	説明	リンク
1.	ラックがサーバーの要件を満たしていることを確認します。	<a href="#">30 ページの「ラックの互換性」</a>
2.	正しいラックマウント部品を選び、その部品を取り付けます。	<a href="#">35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」</a> <a href="#">35 ページの「ラックの取り付け位置を決める」</a> <a href="#">37 ページの「シェルフレールを取り付ける」</a>
3.	ラックにサーバーを取り付けます。	<a href="#">38 ページの「サーバーを設置する」</a>
4.	(オプション) CMA を取り付けます。	<a href="#">40 ページの「CMA の取り付け (オプション)」</a>
5.	(オプション) 別の場所に出荷されるラックにサーバーを設置する場合、出荷用ブレース部品を取り付けます。	<a href="#">44 ページの「出荷用ブレース部品の取り付け (オプション)」</a>
6.	配線の要件とポートの情報を確認します。データケーブルと管理ケーブルをサーバーに接続します。	<a href="#">51 ページの「ケーブルの接続」</a>
7.	Oracle ILOM SP を構成し、サーバーに対して初回の電源投入を行います。	<a href="#">65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」</a>

### 関連情報

- [11 ページの「サーバーについて」](#)
- [26 ページの「設置に必要な工具」](#)

- [51 ページの「ケーブルの接続」](#)

## ラックの互換性

SPARC T8-4 サーバーと付属のラックマウント部品キットは、Oracle の Sun Rack II 1242 ラックのみと互換性があります。サーバーは Oracle 以外のラックではテストされていません。

---

**注記** - このサーバーは、1200 mm の深さのラックに設置するように設計されています。1000 mm の深さのラックはコンポーネントを保守したり、CMA を取り付けてサーバーの電源コードとデータケーブルを安全に配線し、固定したりするための十分なスペースがありません。

---

Oracle 以外のラックにサーバーを取り付ける場合、Oracle 以外のラックがサーバーの取り付け要件 (次のものを含むがこれらに限定されない) を満たしていることを確認します。

- サーバーは、Oracle 以外のラックのラックシェルフ上に配置する必要があります。
- ラックシェルフは 200 lb (91 kg) の最小重量に耐えられる必要があります。
- ラックシェルフは使用されるラック用に設計されている必要があります。

ラックベンダーからラックシェルフを取得します。

---

**注記** - 付属するラックマウント用ハードウェアキットを使用して Oracle 以外のラックにサーバーを取り付けることは、サポートされていません。

---

### 関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [26 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [33 ページの「ラックマウントキットの設置」](#)

## ラックに関する注意事項



---

**注意 - 装置の搭載:** 上方が重くなり転倒することがないように、装置は必ずラックの最下段から上へ順次搭載してください。装置の取り付け時にラックが転倒しないように、ラックの転倒防止バーを伸ばします。

---



**注意 - 動作時周辺温度の上昇:** 密閉されたラックアセンブリまたはマルチユニットのラックアセンブリにサーバーを設置している場合、ラック環境の動作時周辺温度が室内の周辺温度より高くなる場合があります。したがって装置は、サーバーに指定された最大周辺温度 (TMA) に適合する環境内にものみ設置してください。



**注意 - 通気の低下:** 装置をラックに取り付けて、装置が安全に動作するための十分な通気を得られるようにします。



**注意 - 装置の配置:** 重量が均等に分散されるように装置をラックに搭載します。装置の配置が不均等な場合、危険な状態になっている可能性があります。



**注意 - 回路の過負荷:** 電源装置の回路に過大な電流が流れないようにします。サーバーを電源回路に接続する前に、装置のラベルに示されている定格電力を確認し、回路の過負荷によって過電流保護や装置の配線にどのような影響があるかを検討します。



**注意 - 安全なアース:** ラックに搭載する装置は必ず安全にアースします。分岐回路への直接接続以外の電源接続 (電源タップの使用など) の場合は、特に注意してください。



**注意 - スライドレールに搭載した装置を、シェルフや作業スペースとして使用しないでください。**



**注意 - リフトを使用せずに1人でサーバーを移動しようとししないでください。1人で設置する場合は、すべてのコンポーネントを取り外し、リフトを使用する必要があります。2人で設置する場合は、すべてのコンポーネントを取り外す必要がありますが、リフトの使用はオプションです。**



**注意 - サーバーの重量のため、出荷用ブレースが取り付けられている場合を除き、サーバーがラック内にあるときは出荷すべきではありません。サーバーは最終的な場所でのみラックに取り付けてください。**

## 関連情報

- [17 ページの「物理仕様」](#)
- [25 ページの「取り扱い上の注意」](#)
- [32 ページの「ラックを固定する」](#)

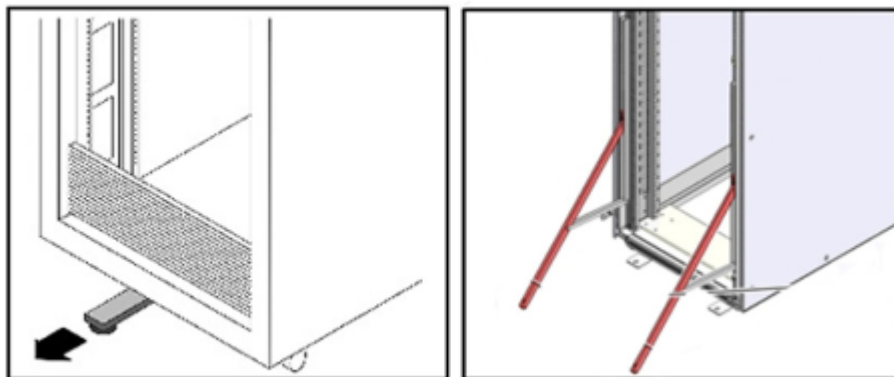
## ▼ ラックを固定する



注意 - 作業員が負傷する危険性を低減するために、すべての転倒防止装置を伸ばしてラックを固定してから、サーバーを取り付けます。

次の手順の詳細な説明については、ラックのドキュメントを参照してください。

1. ラックに関する注意事項を読み、ラックを固定します。  
30 ページの「ラックに関する注意事項」を参照してください。
2. ラックの前面ドアと背面ドアを開いて取り外します。
3. 取り付け中にラックが転倒しないように、あらゆる転倒防止策を講じてラックを固定します。



4. 横転を防ぐための平行調整脚がラックの下部にある場合は、調整脚を床まで完全に伸ばします。
5. ラックマウントキットを取り付けます。  
33 ページの「ラックマウントキットの設置」を参照してください。

### 関連情報

- 33 ページの「ラックマウントキットの設置」
- ラックのドキュメント
- SPARC T8-4 サーバーの安全およびコンプライアンスに関するガイド



- [30 ページの「ラックの互換性」](#)
- [30 ページの「ラックに関する注意事項」](#)

## ラックマウントキットの設置

これらのトピックでは、ラックマウント部品の設置方法について説明します。

- [33 ページの「ラックマウントキットの概要」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [35 ページの「ラックの取り付け位置を決める」](#)
- [37 ページの「シェルフレールを取り付ける」](#)

### 関連情報

- [30 ページの「ラックの互換性」](#)
- [26 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [37 ページの「シェルフレールを取り付ける」](#)

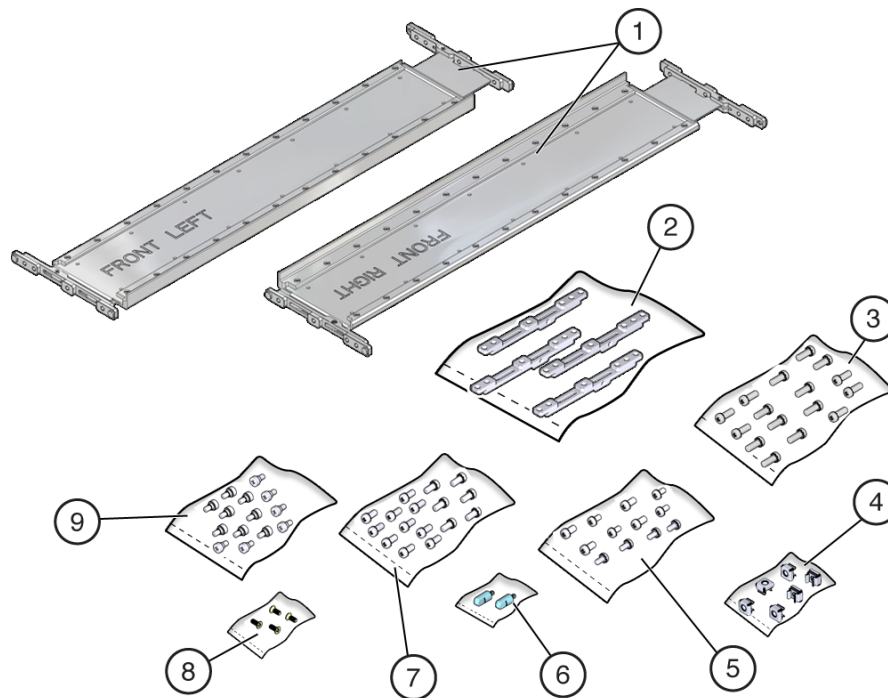
## ラックマウントキットの概要

ラックマウントキットにはシェルフレール構成部品が2つ含まれていて、これらをラックの両側に1つずつ取り付けます。各シェルフレールには「LEFT」か「RIGHT」のマークが付けられています。

シェルフレールは、4つの固定部品を両側に2つずつ使用してラックに取り付けます。角型穴のラック用の固定部品はシェルフレールに事前に取り付けられています。ラックマウントキットには、ねじ穴のラックで使用する固定部品のセットも含まれています。

シェルフレールは、奥行き 25 - 34.25 in. (63.5 - 87 cm) のラックに対応します。

さらに、ラックマウントキットには出荷用ブレースコンポーネントが含まれています。出荷用ブレースコンポーネントの取り付けはオプションです。



番号	説明
1	アダプタ留め具 (角形取り付け穴が付いたラック用) で事前に組み立てられたシェルフレール (2)
2	アダプタ留め具 (丸型取り付け穴が付いたラック用) (2)
3	M6 x 16 mm ねじ (16)
4	ケージナット (6)
5	10 - 32 x 10 mm ねじ (12)
6	ガイドピン (2)
7	M6 x 12 mm ねじ (16)
8	M4 x 10 mm 平頭ねじ (4)
9	10 - 32 段付きねじ (12)

**注記** - キットに含まれているねじセットのいくつかは、このサーバーの設置には必要ありません。

## ▼ 正しいラックマウント部品を選ぶ

1. ラックが固定されていることを確認します。  
32 ページの「ラックを固定する」を参照してください。
2. ラックの取り付けに必要な部品を特定します。

ラックの種類	必要なねじセット
角穴	SCREW、SEMS、M6 X 16 CAGE NUTS、M6
丸穴 (10-32) (コーナーベゼル付き)	SCREW、SEMS、10-32 X 10
丸穴 (M6) (コーナーベゼル付き)	SCREW、FLAT HEAD、M4 X 10 SCREW、SEMS、M6 X 12
丸穴 (10-32) (屋内設置)	SCREW、FLAT HEAD、M4 X 10 SCREW、SHOULDER、10-32
丸穴 (M6) (屋内設置)	SCREW、FLAT HEAD、M4 X 10 SCREW、SEMS、M6 X 12 SCREW、FLAT HEAD、M4 X 10

注記 - キットに含まれているねじセットのいくつかは、このサーバーの設置には必要ありません。

3. ラックの取り付け位置を決めます。  
35 ページの「ラックの取り付け位置を決める」を参照してください。

### 関連情報

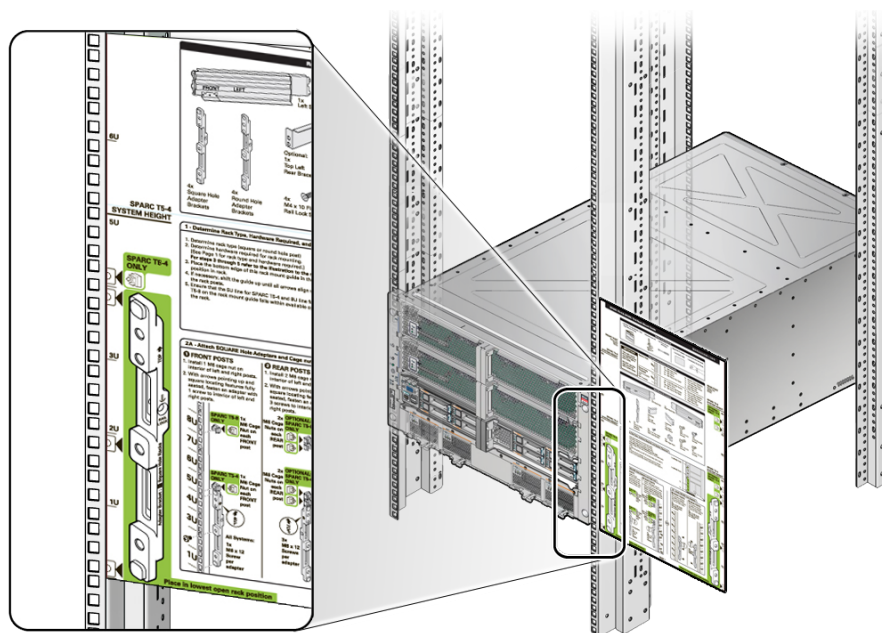
- 30 ページの「ラックの互換性」
- 33 ページの「ラックマウントキットの設置」
- 35 ページの「ラックの取り付け位置を決める」
- 37 ページの「シェルフレールを取り付ける」

## ▼ ラックの取り付け位置を決める

ラックバディーテンプレートを使用して、シェルフレールを取り付けるための正しい取り付け穴を特定します。

注記 - ラックには下から上に搭載してください。

1. ラックに、サーバーを取り付けるために十分な高さがあることを確認します。
2. ラックバディーテンプレートを前面のレールに合わせます。  
テンプレート下端がサーバーの下端に当たります。テンプレート下端から上に高さを測ります。



3. 前面のシェルフレールを取り付ける取り付け穴にマークを付けます。
4. 背面のシェルフレールを取り付ける取り付け穴にマークを付けます。

### 関連情報

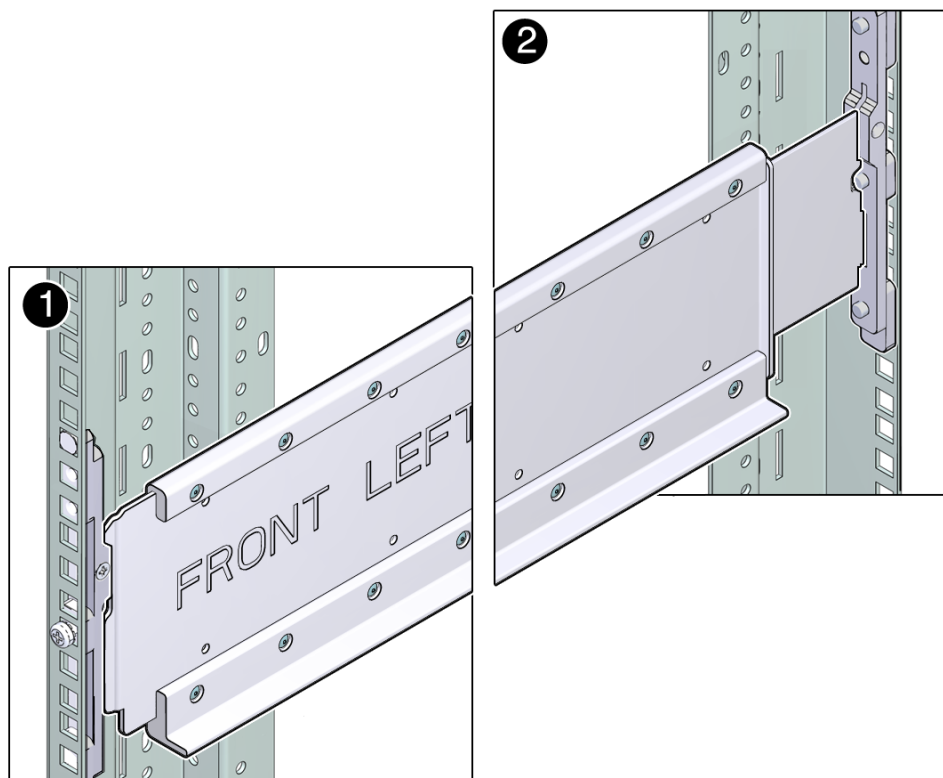
- [30 ページの「ラックの互換性」](#)
- [33 ページの「ラックマウントキットの設置」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [37 ページの「シェルフレールを取り付ける」](#)

## ▼ シェルフレールを取り付ける

1. 左側のシェルフレールをマークした場所に配置します。

注記 - シェルフレールには、(サーバー前面から見た場合の位置で)「*FRONT LEFT*」および「*FRONT RIGHT*」というマークが付けられています。上矢印は正しい方向を示しています。

2. 2本の T30 トルクスねじを使用して、背面のシェルフレールの留め具の上部と下部の穴を固定します。
3. T30 トルクスねじを 1本使用して、中央の穴にシェルフレールの前面を固定します。



4. シェルフレール留め具のすぐ上の穴にケージナットを差し込みます。
5. 右側のシェルフレールについて、**ステップ 1** から **ステップ 4** を繰り返します。

6. 次に実行する手順を確認します。

- CMA を取り付ける場合、40 ページの「CMA の取り付け (オプション)」を参照してください。
- 別の場所に出荷される装置ラックにサーバーを設置する場合、44 ページの「出荷用ブレース部品の取り付け (オプション)」を参照してください。
- サーバーを設置する場合、29 ページの「サーバーの設置」を参照してください。

関連情報

- 30 ページの「ラックの互換性」
- 30 ページの「ラックに関する注意事項」
- 33 ページの「ラックマウントキットの設置」
- 35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」

## ▼ サーバーを設置する



---

注意 - リフトを使用せずに 1 人でサーバーを移動しようとししないでください。1 人で設置する場合は、すべてのメイン CRU を取り外し、リフトを使用する必要があります。2 人で設置する場合は、すべての CRU を取り外す必要がありますが、リフトの使用はオプションです。

---

1. サーバーを設置する前に、次のコンポーネントを取り外したことを確認します。

- 両方のプロセッサモジュール
- メインモジュール
- 4 台すべての電源装置
- 5 台すべてのファンモジュール

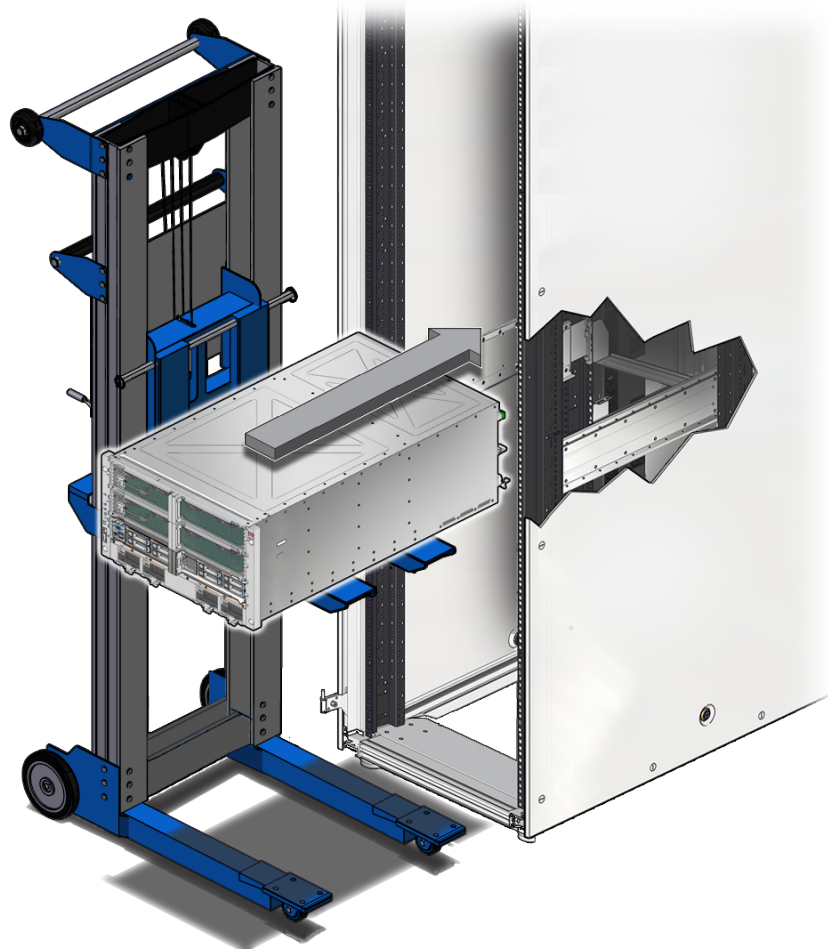
取り外し手順については、『SPARC T8-4 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

2. 機械式リフトを使用している場合は、リフトが水平で安定していることを確認します。

3. サーバーを正しい高さまで持ち上げます。

サーバーの下端がシェルフレールの底よりも上にあることを確認します。

4. サーバーをラック内にスライドさせます。



5. 2 番のプラスのねじを 4 本使用して、サーバーをフロントパネルに固定します。
6. 取り外したすべてのコンポーネントを戻します。
  - 両方のプロセッサモジュール
  - メインモジュール
  - 4 台すべての電源装置
  - 5 台すべてのファンモジュール

取り付け手順については、『SPARC T8-4 サーバーサービスマニュアル』を参照してください。

#### 関連情報

- [30 ページの「ラックの互換性」](#)
- [30 ページの「ラックに関する注意事項」](#)
- [32 ページの「ラックを固定する」](#)
- [33 ページの「ラックマウントキットの設置」](#)

## CMA の取り付け (オプション)

CMA は、サーバー背面に接続された電源ケーブルとデータケーブルを管理およびルーティングするためのオプションのキットです。

---

**注記** - CMA が取り付けられたこのサーバーは、1200 mm のラックにのみ適合します。

---

これらのトピックは、CMA を取り付けるために必要な情報とタスクについて説明します。

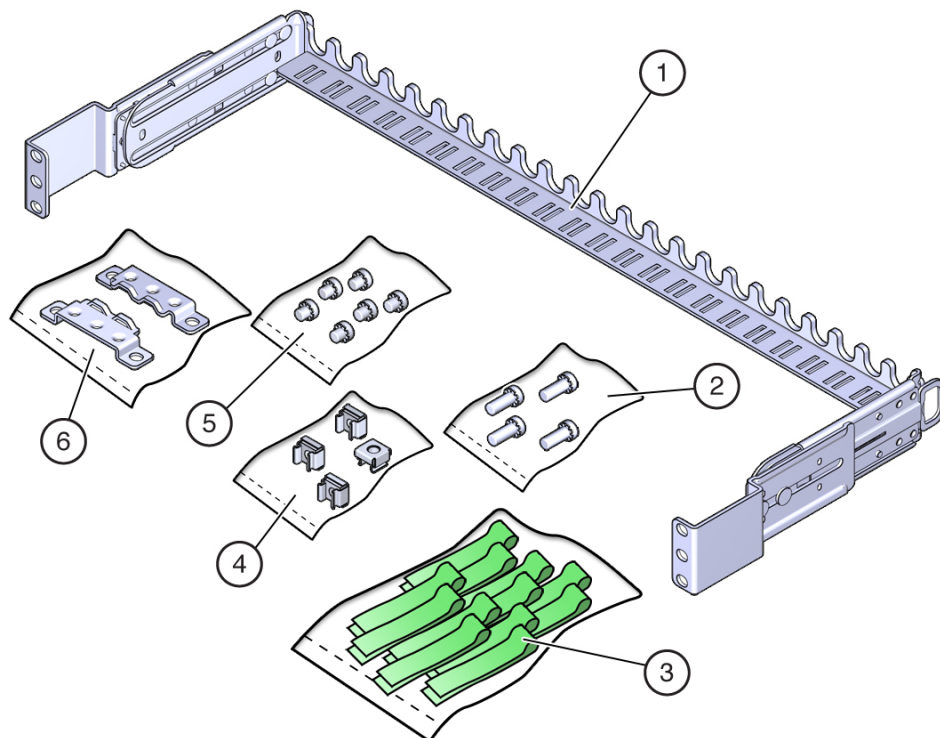
- [41 ページの「CMA キットの概要」](#)
- [42 ページの「CMA を取り付ける」](#)
- [61 ページの「CMA を使用してケーブルを固定する」](#)

#### 関連情報

- [33 ページの「ラックマウントキットの設置」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [41 ページの「CMA キットの概要」](#)
- [61 ページの「CMA を使用してケーブルを固定する」](#)



## CMA キットの概要



番号	説明
1	CMA コーム
2	M6 16 mm ねじ (4)
3	フックとループストラップ (14)
4	M6 ケージナット (4)
5	M6 6 mm ねじ (6)
6	留め具アダプタ (2)

### 関連情報

- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [42 ページの「CMA を取り付ける」](#)

- [61 ページの「CMA を使用してケーブルを固定する」](#)

## ▼ CMA を取り付ける

CMA をラックの背面ポストに固定します。

---

注記 - CMA の取り付けによって、ラックの電源差込口のいくつかがふさがれて使用できなくなる場合があります。

---

1. **CMA を取り付けるための正しい部品があることを確認します。**  
[35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#) を参照してください。
2. **留め具アダプタを CMA コームに取り付けます。**  
6 本の M6 x 6 mm ねじを両側に 3 つずつ使用します。
3. **サーバーがラックにすでに取り付けられている場合、次を行います。**
  - a. **両側に 2 つある 4 つの面板締ねじを取り外します。**



---

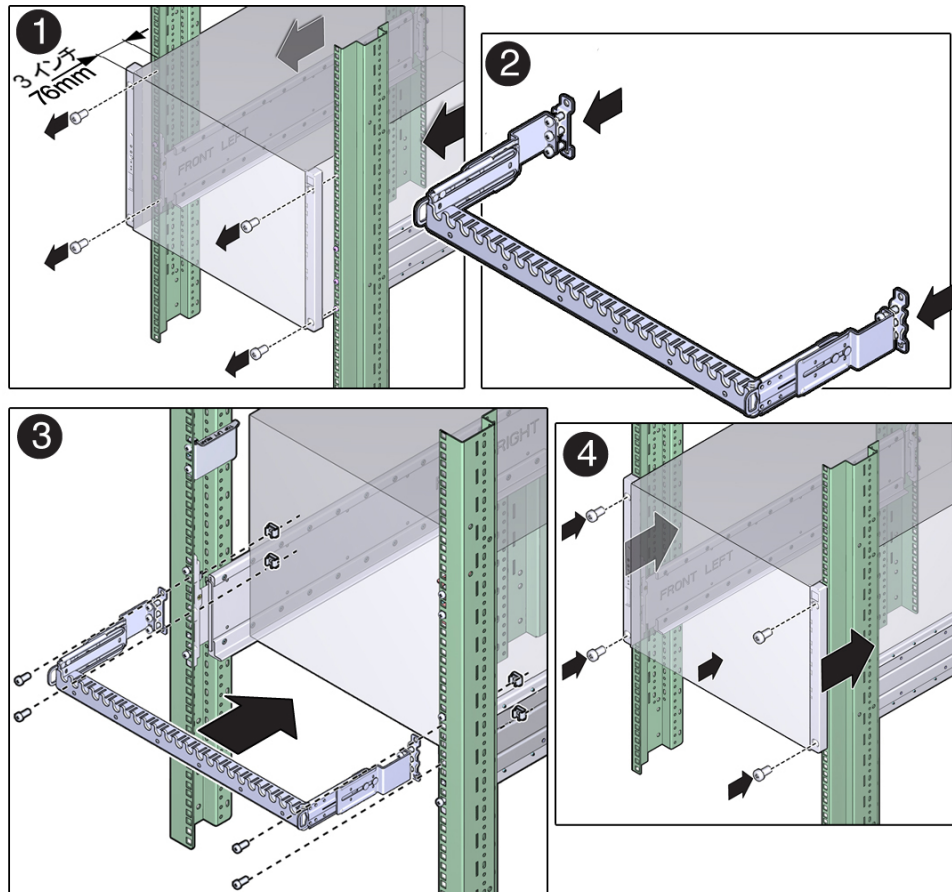
注意 - シェルフレールの留め具をラックに固定しているねじを緩めたり取り外したりしないでください。

---

- b. **サーバーの背面にある角型穴のラックで、中央のアダプタ留め具を両側から取り外します。**



注意 - 角型穴のラックでは、上部のアダプタ留め具は取り外さないでください。



- c. サーバーを前に 3 インチ (76 mm) 押しします。
4. 両側に M6 ねじを 2 本ずつ使用して、CMA をラックポストに取り付けます。
5. 次に実行する手順を確認します。
  - サーバーがすでに取り付けられている場合、次を行います。
    - a. サーバーの前面で、サーバーがレールに触れるまで押し返します。

- b. 4本の面板締ねじを再度、両側に2本ずつ取り付けます。
- サーバーがまだ取り付けられていない場合、サーバーを取り付けます。  
38ページの「サーバーを設置する」を参照してください。

#### 関連情報

- 41ページの「CMAキットの概要」
- 35ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」

## 出荷用ブレース部品の取り付け (オプション)

この出荷用ブレース部品は出荷キットに含まれています。別の場所に出荷される装置ラックにサーバーを設置する場合は、出荷用ブレース部品を使用してください。

---

注記 - これらの手順では、角型取り付け穴付きラックにサーバーを設置する方法を説明します。丸型取り付け穴付きラックにサーバーを設置する場合は、35ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」を参照してください。

---

- 46ページの「正しい出荷用ブレースねじを特定する」
- 46ページの「上部背面の出荷用ブレースを取り付ける」
- 48ページの「下部背面の出荷用ブレースを取り付ける」

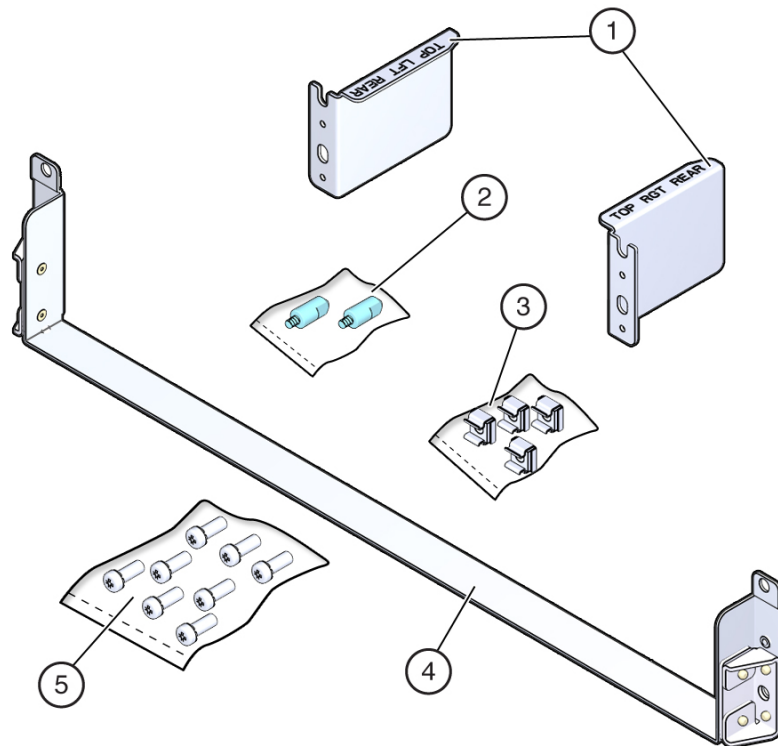
#### 関連情報

- 30ページの「ラックの互換性」
- 35ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」
- 35ページの「ラックの取り付け位置を決める」
- 38ページの「サーバーを設置する」

## 出荷用ブレースの概要

出荷用ブレースは、特に衝撃と振動から保護します。サーバーを車両に設置する場合、または別の最終的な設置場所に出荷される装置ラックにサーバーを設置する場合は、出荷用ブレース部品を取り付けます。

出荷用ブレースと必要なねじはラックマウントキットに付属しています。



番号	説明
1	上部背面の出荷用ブレース (2)
2	ガイドピン (2)
3	ケージナット (4)
4	下部背面の出荷用ブレース
5	ねじ (8)

### 関連情報

- [26 ページの「設置に必要な工具」](#)
- [30 ページの「ラックの互換性」](#)
- [35 ページの「正しいラックマウント部品を選ぶ」](#)
- [35 ページの「ラックの取り付け位置を決める」](#)

## ▼ 正しい出荷用ブレースねじを特定する

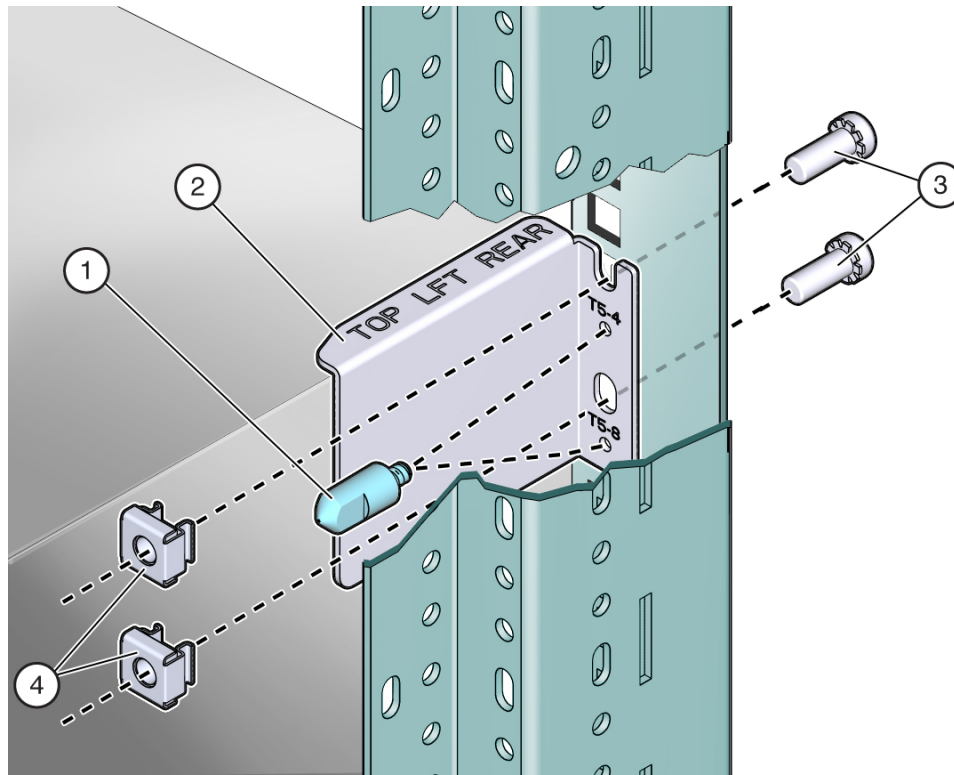
- 出荷用ブレースの取り付けのために正しいねじを特定します。

ラックの種類	必要なねじセット
コーナーベゼル付き角型穴	SCREW、SEMS、M6 X 12MM
ねじ穴 (10 - 32)	SCREW、SHOULDER、10-32
ねじ穴 (M6)	SCREW、SEMS、M6 X 12MM

## ▼ 上部背面の出荷用ブレースを取り付ける

上部背面の出荷用ブレースには、ラック背面から見た場合の位置で「*TOP LFT REAR*」および「*TOP RGT REAR*」というラベルが付けられています。

1. 2つのケージナットを、アダプタ留め具の上の左側の背面ラックポストに差し込みます。



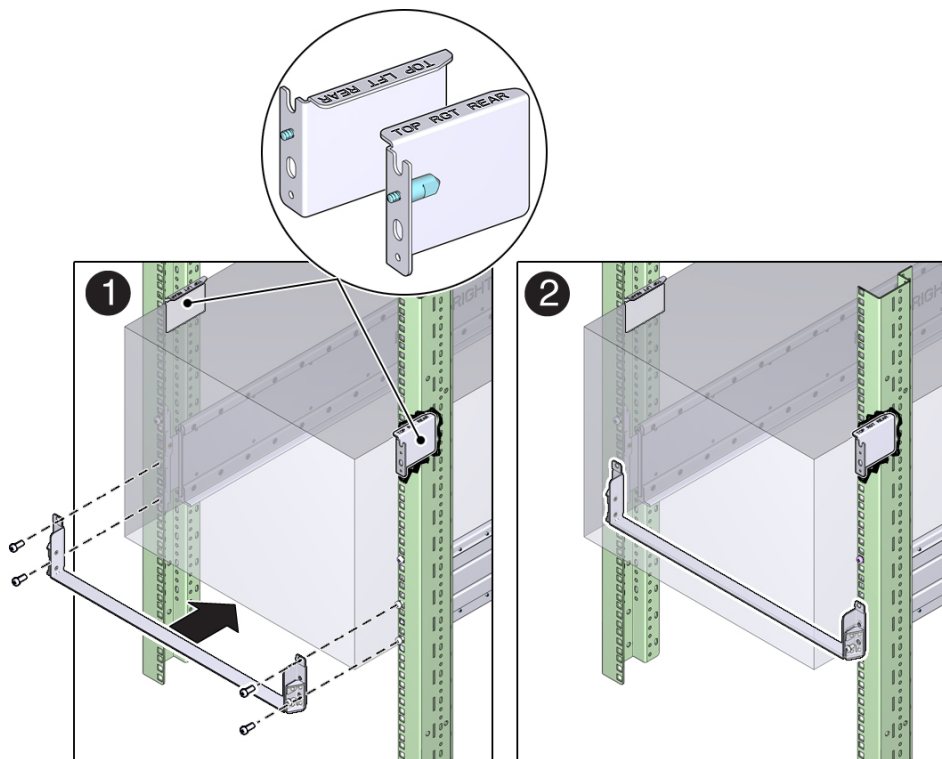
2. 上部左側の出荷用ブレースを、アダプタ留め具の上の左側の背面ラックポストに置きます。
3. ガイドピンをサーバーの適切な穴に挿入して指で締めます。
4. 2本の M6 x 12 mm ねじでブレースを固定します。
5. 上部右側の出荷用ブレースで**ステップ 1** から**ステップ 4** を繰り返します。

#### 関連情報

- [46 ページの「正しい出荷用ブレースねじを特定する」](#)
- [48 ページの「下部背面の出荷用ブレースを取り付ける」](#)

## ▼ 下部背面の出荷用ブレースを取り付ける

1. システムの下部背面に出荷用ブレースを置きます。
2. 2本の M6 x 12 mm ねじで下部背面の出荷用ブレースの両側を固定します。



### 関連情報

- 46 ページの「正しい出荷用ブレースねじを特定する」
- 46 ページの「上部背面の出荷用ブレースを取り付ける」
- 49 ページの「下部背面の出荷用ブレースを取り外す」



## ▼ 下部背面の出荷用ブレースを取り外す

サーバーラックが最終目的地に到達したら、下部の出荷用ブレースを取り外します。

1. 下部の出荷用ブレースをラックに固定している 4 本のねじを取り外します。
2. 出荷用ブレースをラックの背面からスライドさせます。

### 関連情報

- [46 ページの「正しい出荷用ブレースねじを特定する」](#)
- [46 ページの「上部背面の出荷用ブレースを取り付ける」](#)
- [48 ページの「下部背面の出荷用ブレースを取り付ける」](#)



## ケーブルの接続

---

これらのタスクでは、サーバーのブートを試みる前にネットワークおよびシリアルポートを接続して構成する方法について説明します。

手順	説明	リンク
1.	配線の要件を確認します。	<a href="#">51 ページの「配線の要件」</a>
2.	フロントパネルと背面パネルのコネクタおよびポートを確認します。	<a href="#">14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」</a> <a href="#">15 ページの「背面パネルのコンポーネント」</a> <a href="#">53 ページの「ポートの識別」</a>
3.	管理ケーブルおよびデータケーブルを接続します。	<a href="#">58 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」</a>
4.	CMA にケーブルを固定します。	<a href="#">61 ページの「CMA を使用してケーブルを固定する」</a>

### 関連情報

- [11 ページの「サーバーについて」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [29 ページの「サーバーの設置」](#)
- [65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)

## 配線の要件

- **サーバーのケーブル接続の最小構成:**
  - サーバーのシステムボード上の 1 つ以上の Ethernet ネットワーク接続 (NET ポート)
  - シリアル管理ポート (SER MGT ポート): Oracle ILOM ブートメッセージを伴う SP ローカル接続
  - サーバー電源装置の電源ケーブル

- **SP 管理ポート:** Oracle ILOM SP で使用する SP 管理ポートは 2 つあります。
  - SER MGT ポートは RJ-45 ケーブルを使用し、常に使用可能です。このポートは、ILOM SP へのデフォルトの接続です。
  - NET MGT ポートは、Oracle ILOM SP へのオプションの接続です。NET MGT ポートは、DHCP をデフォルトで使用するよう構成されています。静的 IP アドレスを設定するには、77 ページの「静的 IP アドレスの SP への割り当て」を参照してください。SP ネットワーク管理ポートでは、10/100 BASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。
- **Ethernet ポート:** NET 0、NET 1、NET 2、および NET 3 のラベルが付いています。Ethernet インタフェースは 100M ビット/秒、1G ビット/秒、および 10G ビット/秒で動作します。

接続タイプ	IEEE 用語	転送速度
ファスト Ethernet	100BASE-T	100M ビット/秒
ギガビット Ethernet	1GBASE-T	1000M ビット/秒
10 ギガビット Ethernet	10GBASE-T	10000M ビット/秒

**注記 - 10 GbE のネットワーク速度を実現するには、1000BASE-T ネットワークをサポートするカテゴリ 6 (またはそれ以上) のケーブルとネットワークデバイスを使用します。**

- **USB ポート:** USB ポートはホットプラグ対応です。サーバーの動作中でも、サーバーの動作に影響を与えることなく USB ケーブルや周辺デバイスを接続および切断できます。
  - OS の動作中にのみ、USB ホットプラグ処理を実行できます。サーバーの ok プロンプトの表示中、およびサーバーのブートが完了するまでは、USB ホットプラグ処理はサポートされません。
  - 4 つの USB コントローラには、それぞれデバイスを 126 台まで接続でき、1 つのサーバーにつき合計 504 台の USB デバイスを接続できます。
- **AC 電源ケーブル:** データケーブルの接続が完了し、サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまでは、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。AC 電源ケーブルを電源に接続するとすぐに、サーバーがスタンバイモードになり、Oracle ILOM SP が初期化されます。サーバーが端末、PC、またはワークステーションに接続されていない場合、システムメッセージは表示されません。

## 関連情報

- 58 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 59 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」

- 60 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」
- 65 ページの「電源コードを準備する」

## ポートの識別

- 53 ページの「USB ポート」
- 54 ページの「SER MGT ポート」
- 55 ページの「NET MGT ポート」
- 56 ページの「Ethernet ポート」
- 57 ページの「VGA ポート」

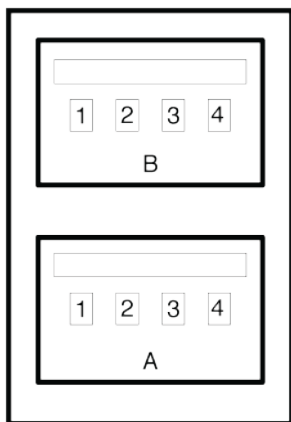
### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 58 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」

## USB ポート

2つの USB 3.0 ポートが背面パネルにあります。このほかに、メインモジュールにも USB 3.0 ポートが2つあり、フロントパネルからアクセスできます。14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」および 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」で USB ポートの位置を確認してください。USB ポートはホットプラグをサポートしています。サーバーの動作中でも、サーバーの動作に影響を与えることなく USB ケーブルや周辺デバイスを接続および切断できます。

各 USB ポートは 2 A で 5 V を供給します。



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
A1	+5 V (ヒューズ付き)	B1	+5 V (ヒューズ付き)
A2	USB0/1-	B2	USB2/3-
A3	USB0/1+	B3	USB2/3+
A4	アース	B4	アース

### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [58 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」](#)

## SER MGT ポート

SER MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、SP への TIA/EIA-232 シリアル Oracle/ Cisco 標準接続を提供します。このポートは、Oracle ILOM SP へのデフォルトの接続です。DTE 間の通信では、標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45/DB-9 クロスアダプタを使用すると、必要なヌルモデム構成を実現できます。[15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)を参照してください。

このほかに、メインモジュールにも SER MGT ポートが1つあり、フロントパネルからアクセスできます。[14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)を参照してください。



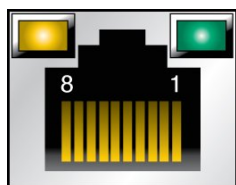
ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信要求	5	アース
2	データ端末レディー	6	受信データ
3	送信データ	7	データセットレディー
4	アース	8	送信可

### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [58 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」](#)
- [67 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)

## NET MGT ポート

NET MGT RJ-45 ポートは背面パネルにあり、SP へのオプションの Ethernet 接続を提供します。NET MGT ポートは、Oracle ILOM SP へのオプションの接続です。SP NET MGT ポートでは、10GBASE-T 接続用に RJ-45 ケーブルを使用します。DHCP サーバーを使用しないネットワークでは、SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、このポートにアクセスできません。[15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)を参照してください。



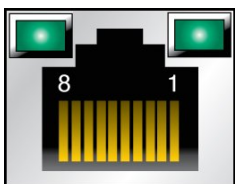
ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信データ +	5	コモンモードの終了
2	送信データ -	6	受信データ -
3	受信データ +	7	コモンモードの終了
4	コモンモードの終了	8	コモンモードの終了

### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [59 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」](#)
- [78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)

## Ethernet ポート

4 つの RJ-45 10 ギガビット、全二重、自動ネゴシエーションの Ethernet ポート (NET 0、NET 1、NET 2、NET 3) がシステムの背面パネルにあります。[15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)を参照してください。Ethernet インタフェースは 100M ビット/秒、1G ビット/秒、および 10G ビット/秒で動作します。



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信/受信データ 0 +	5	送信/受信データ 2 -
2	送信/受信データ 0 -	6	送信/受信データ 1 -
3	送信/受信データ 1 +	7	送信/受信データ 3 +
4	送信/受信データ 2 +	8	送信/受信データ 3 -

### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)



- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 60 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」

## VGA ポート

サーバーには 15 ピンの VGA ビデオポートが 2 つ搭載されています。1 つはサーバーの前面にあり、もう 1 つは背面にあります。14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」および 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」を参照してください。DB-15 ビデオケーブルを使用してビデオアダプタに接続し、必要な接続を実現します。サポートされる最大解像度は 1024 x 768 です。

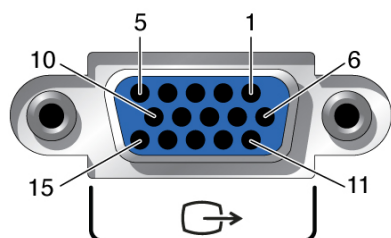
---

**注記** - 一度に使用できるポートは、2 つのうち一方だけです。背面の VGA ポートはデフォルトで無効になっています。背面ポートを有効にして前面ポートを無効にするには、Oracle ILOM `VGA_REAR_PORT` ポリシーを有効にする必要があります。-> `set /SP/policy VGA_REAR_PORT=enabled` と入力します。

---

**注記** - モニターと VGA ポートの接続に使用するケーブルの長さは 6 m を超えないようにしてください。

---



ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	赤ビデオ	9	[KEY]
2	緑ビデオ	10	同期アース
3	青ビデオ	11	モニター ID - ビット 1
4	モニター ID - ビット 2	12	VGA 12C シリアルデータ
5	アース	13	水平同期
6	赤アース	14	垂直同期
7	緑アース	15	VGA 12C シリアルクロック

ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
8	青アース		

#### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 61 ページの「その他のデータケーブルを接続する」

## データケーブルおよび管理ケーブルの接続

これらのケーブルを接続したら、AC 電源コードを接続する前に、65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」を参照してください。



---

注意 - サーバー付属の電源コードのみを使用してください。

---

- 58 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 59 ページの「NET MGT ケーブルを接続する」
- 60 ページの「Ethernet ネットワークケーブルを接続する」
- 61 ページの「その他のデータケーブルを接続する」

#### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 53 ページの「ポートの識別」

### ▼ SER MGT ケーブルを接続する

SP の SER MGT ポートには、SER MGT のマークが付いています。SP SER MGT ポートはサーバー管理にのみ使用されます。これは、SP と端末またはコンピュータとのデ

フォルトの接続です。コネクタの位置については、[14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)および[15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)を参照してください。



**注意** - SP SER MGT ポートにモデムを接続しないでください。

- **RJ-45 ケーブル (カテゴリ 5) を、SP SER MGT ポートから端末デバイスに接続します。**  
サーバーの初期管理にこのポートを使用してください。このポートは、[65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」](#)で述べているように、NET MGT ポートをアクティブ化する場合に必要です。

DB-9 または DB-25 のいずれかのケーブルを接続する場合、適切なクロスケーブルアダプタを使用して必要なヌルモデム構成を作成します。

#### 関連情報

- [12 ページの「サーバーの概要」](#)
- [14 ページの「フロントパネルのコンポーネント」](#)
- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [67 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」](#)

## ▼ NET MGT ケーブルを接続する

SP NET MGT ポートには、NET MGT というラベルが付いています。サーバーの初期構成を行なったあとで、この NET MGT ポートを使用すると、Ethernet ネットワーク経由で SP に接続できます。

IP アドレスの指定に DHCP サーバーを使用しているネットワークの場合は、DHCP サーバーによってこの NET MGT ポートに IP アドレスが割り当てられます。この IP アドレスにより、SSH 接続を使用して SP に接続できます。DHCP を使用しないネットワークの場合は、SER MGT ポートを通してネットワーク設定を構成するまで、この NET MGT ポートにアクセスできません。手順については、[78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)を参照してください。

- **カテゴリ 5 (またはそれ以上) のケーブルを使用して、NET MGT ポートをネットワークスイッチまたはハブに接続します。**  
コネクタの位置については、[15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)を参照してください。

67 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」で説明するように、SER MGT ポートを介してネットワーク設定を構成するまで、NET MGT ポートは動作しません。

---

注記 - NET MGT ポートは、デフォルトでは DHCP を介してネットワーク設定を取得し、SSH を使用した接続を有効にするように構成されています。使用しているネットワークに合わせて、これらの設定の変更が必要になる場合があります。これらの設定の変更に関する情報は、65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」に記載されています。

---

### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 55 ページの「NET MGT ポート」
- 78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」

## ▼ Ethernet ネットワークケーブルを接続する

サーバーには、NET 0、NET 1、NET 2、および NET 3 のラベルが付いた、4 つの RJ-45 ネットワークコネクタがあります。これらのポートを使用して、サーバーをネットワークに接続します。Ethernet インタフェースは、100M ビット/秒、1000M ビット/秒、および 10000M ビット/秒で動作します。ポートの位置については、15 ページの「背面パネルのコンポーネント」を参照してください。

---

注記 - Oracle ILOM サイドバンド管理機能により、これらの Ethernet ポートの 1 つを使用すると、SP にアクセスできます。手順については、サーバーの管理ガイドを参照してください。

---

---

注記 - 1 GbE のネットワーク速度を実現するには、1000BASE-T ネットワークをサポートするカテゴリ 6 (またはそれ以上) のケーブルとネットワークデバイスを使用します。

---

1. カテゴリ 5 (またはそれ以上) のケーブルを、ネットワークスイッチまたはハブからシャーシの背面にある Ethernet ポート 0 (NET 0) に接続します。
2. 必要に応じて、カテゴリ 5 (またはそれ以上) のケーブルをネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポート (NET 1、NET 2、NET 3) に接続します。

### 関連情報

- 12 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- 56 ページの「Ethernet ポート」
- 65 ページの「サーバーへのはじめての電源投入」
- [SPARC T8 Series Servers Administration Guide](#)

## ▼ その他のデータケーブルを接続する

- サーバーにその他の I/O コンポーネントが構成されている場合は、外部ケーブルをこれらのコンポーネントにあるコネクタに接続します。

### 関連情報

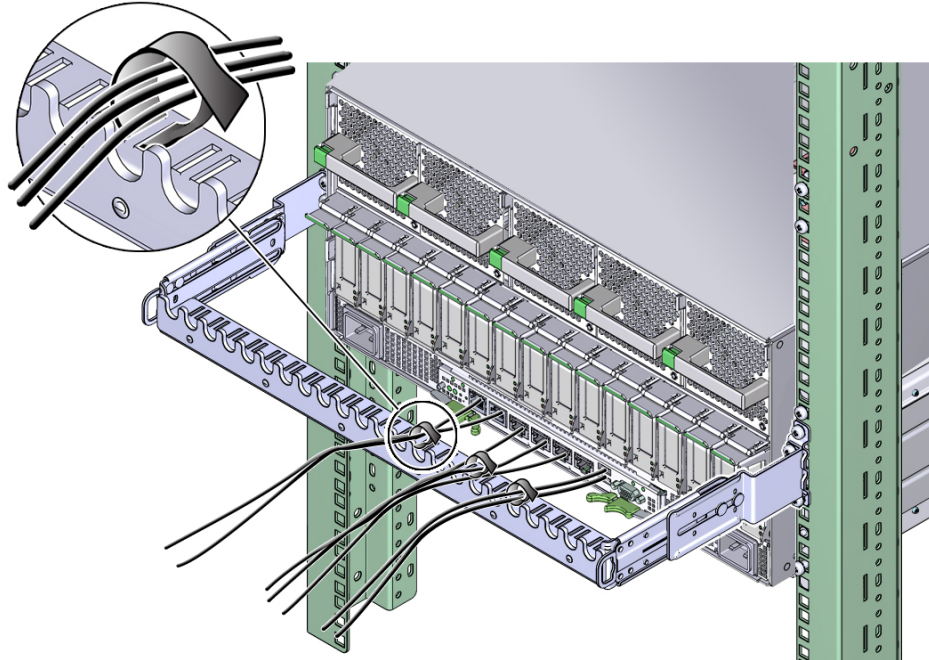
- 12 ページの「サーバーの概要」
- 15 ページの「背面パネルのコンポーネント」
- 51 ページの「配線の要件」
- PCIe カードのドキュメント
- [SPARC T8-4 Server Service Manual](#)

## ▼ CMA を使用してケーブルを固定する

CMA を使用してケーブルを固定し、ケーブルが正しく配線されるようにします。

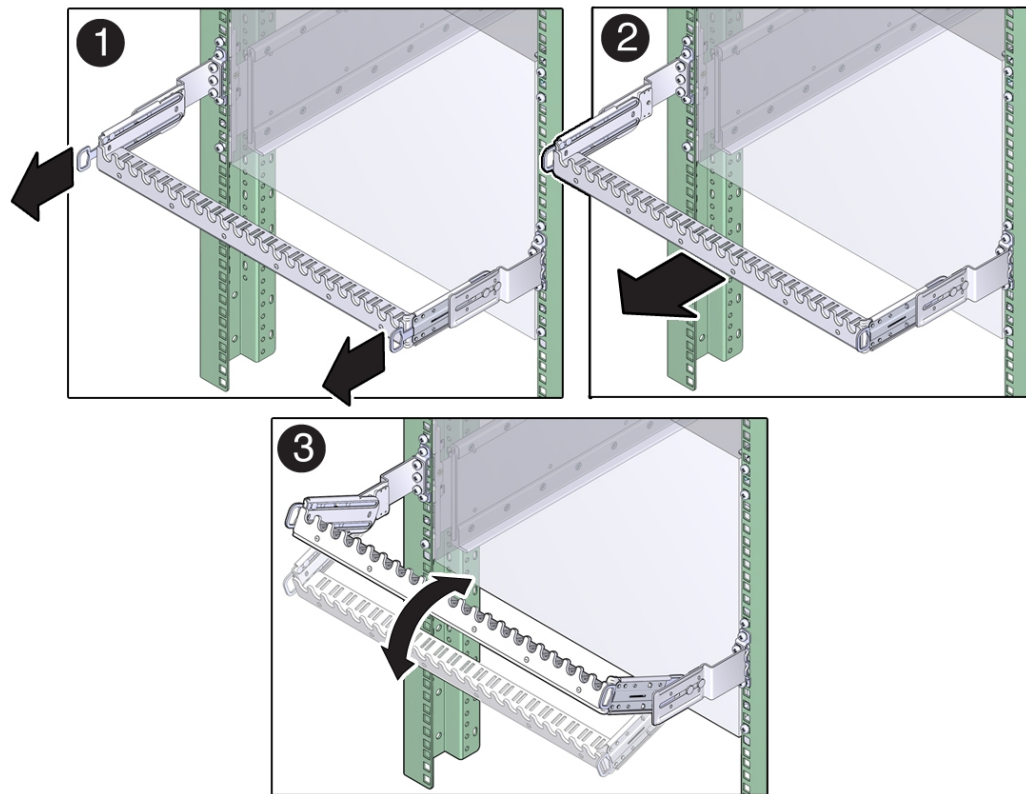
1. 適宜ケーブルを重ねて束ねます。  
[58 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」](#) を参照してください。

付属の面ファスナーを使用して、CMA でケーブルを固定します。



2. 必要に応じて CMA を上下に傾けて、ケーブルの向きを適宜変更します。

リリース爪を引いて CMA コームをロック解除します。必要に応じて CMA コームを上部に回転させ、リリース爪を押し込んで CMA コームを望ましい位置でロックします。



### 関連情報

- [40 ページの「CMA の取り付け \(オプション\)」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)





# サーバーへのはじめての電源投入

---

これらのトピックでは、はじめてサーバーに電源を投入し、Oracle Solaris OS を構成する手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	電源コードを準備します。	<a href="#">65 ページの「電源コードを準備する」</a> <a href="#">66 ページの「シャーシのアース線を接続する」</a>
2.	SER MGT ポートにシリアル端末デバイスまたは端末サーバーを接続します。	<a href="#">67 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」</a>
3.	サーバーに電源を投入して Oracle ILOM システムコンソールを起動します。	<a href="#">69 ページの「はじめてサーバーに電源投入する」</a> または <a href="#">71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」</a>
4.	プリインストールされている OS を構成するか、または新規 OS をインストールします。	<a href="#">71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」</a> または <a href="#">72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」</a>
5.	Oracle Solaris OS の構成パラメータを設定します。	<a href="#">76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」</a>
6.	(オプション。)静的 IP アドレスを使用するように NET MGT ポートを構成します。	<a href="#">78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」</a>

## 関連情報

- [11 ページの「サーバーについて」](#)
- [29 ページの「サーバーの設置」](#)
- [58 ページの「データケーブルおよび管理ケーブルの接続」](#)

## ▼ 電源コードを準備する

AC 電源からサーバーまで電源コードを配線して準備します。



---

注意 - サーバー付属の電源コードのみを使用してください。

---



**注意** - サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまで、電源ケーブルを電源装置に接続しないでください。電源ケーブルで電源装置と外部電源を接続すると、ただちにサーバーがスタンバイモードになり、Oracle ILOM SP が初期化されます。電源を投入する前に端末または端末エミュレータを SER MGT ポートに接続していないと、システムメッセージは 60 秒後に表示されなくなる可能性があります。

---

**注記** - 同時に 4 台すべての電源装置が接続されていない場合は、非冗長の状態になるため、Oracle ILOM がフォルト発生を通知します。このような状況では、この障害は気にしないでください。

---

- **AC 電源からサーバー背面に電源コードを配線します。**  
この時点では、電源コードを電源装置に接続しないでください。

#### 関連情報

- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [66 ページの「シャーシのアース線を接続する」](#)
- [69 ページの「はじめてサーバーに電源投入する」](#)

## ▼ シャーシのアース線を接続する

この手順は、AC 入力電力を持つサーバーの場合はオプションです。電源装置およびシャーシのアース線を使用してサーバーを接地することもできます。



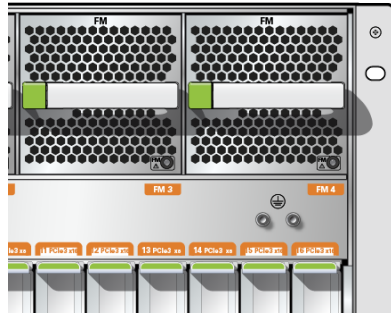
**注意** - サーバーシャーシは、電源の接地ピンまたはシャーシのアース用の穴を使用して接地する必要があります。両方のアースを接続してもかまいません。

---

1. **アース端子 (二ツ穴、長フレア型、AWG ワイヤ 6 番、取付穴 ¼ インチ、取付穴の間隔 5/8 インチ、穴のサイズと間隔は NEMA 規格に準拠、舌部角度 45°)、および 2 本の M5 ねじを準備します。**

アース端子およびねじはお客様側で用意する必要があります。アース端子は取付穴の径が 1/4 インチ、穴の間隔が 5/8 インチの二ツ穴のものがが必要です。

2. サーバーの背面に移動し、ファンモジュール 4 (FM4)の下にある 2 つのアース用の穴を見つけます。



3. アース端子をシャーシの背面の 2 つのアース用の穴にはめ合わせます。
4. 2 本の M5 ねじを使用して、アース端子をアース用の穴に固定します。
5. アース線の反対側の終端を建物のアースに固定します。  
ラックが建物のアースに適切に接地されている場合は、アース線をラックの適切なアースポイントに固定できます。

#### 関連情報

- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [69 ページの「はじめてサーバーに電源投入する」](#)

## ▼ SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する

はじめてサーバーの電源を入れる前に、端末または端末エミュレータから SP にシリアル接続します。このシリアル接続を行うと、電源コードの接続時にシステムメッセージを確認できます。

1. 次のタスクが完了していることを確認します。
  - a. 設置の準備を完了した。  
[23 ページの「設置の準備」](#)を参照してください。
  - b. サーバーのラックへの設置を完了した。  
[29 ページの「サーバーの設置」](#)を参照してください。

c. 必要なケーブルを接続した。

51 ページの「ケーブルの接続」を参照してください

2. 端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) をサーバーの SER MGT ポートに接続します。
3. 端末または端末エミュレータはこれらの設定で構成します。
  - 9600 ボー
  - 8 ビット
  - パリティなし
  - ストップビット 1
  - ハンドシェイクなし

ヌルモデム構成が必要です。つまり、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になるようにクロスされます。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用すると、ヌルモデム構成を実現できます。

---

注記 - サーバーにはじめて電源を入れるときに端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) が SER MGT ポートに接続されていないと、システムメッセージを確認できません。

---

4. (オプション) サーバーの NET MGT ポートと、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。

SER MGT ポートを通してはじめてシステムを構成します。初期構成のあと、この Ethernet インタフェースを介して SP とホストの間の通信を設定できます。
5. サーバーの NET ポートの 1 つと、サーバーが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
6. 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。

電源コードが接続されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯します。数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。この時点では、ホストは初期化されておらず、電源も入っていません。
7. サーバーにはじめて電源を入れて取り付けを続けます。

69 ページの「はじめてサーバーに電源投入する」を参照してください。

#### 関連情報

- 58 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」

- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」

## ▼ はじめてサーバーに電源投入する

1. 端末デバイスで、パスワード `changeme` を使用して、`root` として `SP` にログインします。

```
XXXXXXXXXXXXXXXX login: root
Password: changeme (何も表示されません)
.:.
->
```

しばらくすると、Oracle ILOM プロンプト (`->`) が表示されます。

---

**注記** - Oracle ILOM への最初のログインやアクセスが可能になるように、システムではデフォルトの管理者アカウントとパスワードが用意されています。セキュアな環境を構築するため、Oracle ILOM への初回ログイン後、デフォルトの管理者アカウント (`root`) のデフォルトのパスワード (`changeme`) を変更する必要があります。このデフォルトの管理者アカウントが変更されている場合は、システム管理者に連絡して、管理者特権を持つ Oracle ILOM ユーザーアカウントを確認してください。

---

パスワードの変更、アカウントの追加、アカウント権限の設定などの管理タスクの詳細については、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

---

**注記** - デフォルトでは、`SP` は DHCP を使用して IP アドレスを取得するように構成されています。静的 IP アドレスを `SP` に割り当てる予定の場合は、78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」で詳細な手順を確認してください。

---

2. 次のいずれかの方法でサーバーに電源を投入します。

- 電源ボタンを押します。
- Oracle ILOM プロンプトで、次のように入力します。

```
-> start /System
Are you sure you want to start /System (y/n)? y
```

サーバーの初期化は、完了するまでに数分かかることがあります。

3. (オプション) ホスト出力をシリアル端末デバイスに表示するようにリダイレクトします。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /SP/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

- ...
4. (オプション) サーバーの初期化中にほかの Oracle ILOM コマンドを実行できます。
    - a. Oracle ILOM プロンプトを表示するには、#. (シャープ + ピリオド) キーを押します。
    - b. 使用可能な Oracle ILOM コマンドに関する情報を表示するには、help と入力します。  
特定のコマンドに関する情報を表示するには、help command-name と入力します
    - c. サーバーの初期化からホスト出力の表示に戻るには、次を入力します。

```
-> start /HOST/console
```

5. OS をインストールして設置を続けます。

71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」を参照してください。

#### 関連情報

- 58 ページの「SER MGT ケーブルを接続する」
- 70 ページの「Oracle ILOM システムコンソール」
- 71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」
- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」

## Oracle ILOM システムコンソール

電力がシステムにはじめて供給されると、Oracle ILOM システムコンソールの制御下でブートプロセスが開始されます。システムコンソールには、システムの起動中に実行されるファームウェアベースのテストで生成されたステータスメッセージおよびエラーメッセージが表示されます。

---

**注記** - これらのステータスメッセージとエラーメッセージを確認するには、サーバーに電力を供給する前に、SER MGT に端末または端末エミュレータを接続します。

---

システムコンソールによる低レベルのシステム診断が完了すると、SP が初期化され、より高いレベルの診断が実行されます。SER MGT ポートに接続されているデバイスを使用して SP にアクセスすると、Oracle ILOM 診断の出力が表示されます。

デフォルトでは、SP は DHCP を使用してネットワーク構成設定を取得し、SSH を使用した接続を許可するように、NET MGT ポートを自動的に構成します。

システムコンソールの構成と端末の接続の詳細については、サーバーの管理ガイドを参照してください。

### 関連情報

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)
- [78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)
- [SPARC T8 Series Servers Administration Guide](#)
- [Oracle ILOM のドキュメント](#)

## OS のインストール

これらのトピックを使用して、プリインストールされた OS を構成するか、代替 OS を使用します。

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)

### 関連情報

- [76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」](#)

## ▼ プリインストールされている OS を構成する

1. 使用する OS を決定します。
  - プリインストールされた OS を使用する予定の場合は、手順 2 に進みます。
  - プリインストールされた OS を使用しない場合は、[72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#) または [74 ページの「新規](#)

**OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)**に進みます。

2. プロンプトが表示されたら、ホストで **Oracle Solaris OS** を構成するための画面上の手順に従います。  
構成の確認を求めるプロンプトが数回表示され、そこで確定と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで Oracle Solaris OS が実行されているときに変更できます。初期構成中に指定する必要がある Oracle Solaris OS パラメータについては、76 ページの「**Oracle Solaris OS の構成パラメータ**」を参照してください。
3. サーバーにログインします。  
これで、Oracle Solaris OS コマンドをプロンプトで入力できるようになりました。詳細は、次で Oracle Solaris OS のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。  
<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

#### 関連情報

- 65 ページの「電源コードを準備する」
- 67 ページの「SER MGT ポートに端末またはエミュレータを接続する」
- 69 ページの「はじめてサーバーに電源投入する」
- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」

## ▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)

プリインストールされている OS を使用する予定がない場合は、この手順を使用して、サーバーがプリインストールされている OS からブートされないようにします。71 ページの「**プリインストールされている OS を構成する**」のステップ 5 を確認したら、この代替の手順を実行できます。

1. インストール方法に応じて、適切なブートメディアを準備します。  
OS をインストールする方法は数多くあります。たとえば、外部メディアやネットワーク上の別のサーバーから OS をブートし、インストールできます。  
手順の詳細については、次で『Oracle Solaris 11 システムのインストール』を参照し、インストールオプションを比較してください。  
<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>
2. Oracle ILOM から、OpenBoot auto-boot? パラメータを `false` に設定します。



```
-> set /HOST/bootmode script="setenv auto-boot? false"
```

この設定により、プリインストールされている OS からサーバーがブートされなくなります。ホストの電源がリセットされていない場合に、bootmode を使用すると、変更は 1 回のブートにのみ適用され、10 分で期限切れになります。

### 3. OS のインストールを開始する準備ができたなら、ホストをリセットします。

```
-> reset /System
Are you sure you want to reset /System (y/n)? y
Performing reset on /System
```

### 4. 通信をサーバーホストに切り替えます。

```
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/console (y/n)? y
Serial console started. To stop, type #.
```

サーバーで POST を完了するのに、数分かかることがあります。次に、OpenBoot プロンプト (ok) が表示されます。

### 5. インストール方法に適したブートメディアからブートします。

詳細は、次の場所にある *Oracle Solaris 11* システムのインストールを参照して、インストールオプションを比較してください。

<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

有効なブートコマンドの一覧を表示するには、次を入力します。

```
ok help boot
boot <specifier> ( -- ) boot kernel ( default ) or other file
Examples:
  boot - boot kernel from default device.
        Factory default is to boot
        from DISK if present, otherwise from NET.
  boot net - boot kernel from network
  boot cdrom - boot kernel from CD-ROM
  boot disk1:h - boot from disk1 partition h
  boot tape - boot default file from tape
  boot disk myunix -as - boot myunix from disk with flags "-as"
dload <filename> ( addr -- ) debug load of file over network at address
Examples:
  4000 dload /export/root/foo/test
  ?go - if executable program, execute it
       or if Forth program, compile it
```

## 関連情報

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)
- [72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM CLI\)」](#)
- [74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする \(Oracle ILOM Web インタフェース\)」](#)
- [78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」](#)

## ▼ 新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)

プリインストールされている OS を使用する予定がない場合は、この手順を使用して、サーバーがプリインストールされている OS からブートされないようにします。

1. **インストール方法に応じて、適切なブートメディアを準備します。**

OS をインストールする方法は数多くあります。たとえば、外部メディアやネットワーク上の別のサーバーから OS をブートし、インストールできます。詳細は、次の場所にある *Oracle Solaris 11* システムのインストールを参照して、インストールオプションを比較してください。

<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

2. **まだ実行していない場合は、次のタスクを実行して、サーバー上の Oracle ILOM Web インタフェースにアクセスします。**

- a. システムと同じネットワーク上のブラウザで、SPM の IP アドレスを入力します。
- b. ユーザー名とパスワードを入力して、Oracle ILOM にログインします。

3. **Oracle ILOM Web インタフェースの左のナビゲーションペインで、「Host Management」->「Host Boot Mode」を選択します。**

「Host Boot Mode」ページが表示されます。

4. **「Host Boot Mode Settings」に次の変更を適用します。**

■ **「State」には、「Reset NVRAM」を選択します。**

この設定では、スクリプトの設定に基づいて 1 回かぎりの NVRAM (OpenBoot) の変更が適用され、次回のホストリセット時に NVRAM がデフォルト設定にリセットされます。

■ **「Script」には、「setenv auto-boot? false」を入力します。**

この設定では、プリインストールされている OS を自動的にブートする代わりに、ok プロンプトでホストが停止するように構成されます。

**「Save」をクリックします。**

---

**注記** - 次の手順の実行時間は 10 分です。10 分後に、自動的に通常の状態に戻ります。

---

5. 左のナビゲーションパネルで、「Host Management」->「Power Control」をクリックします。
6. プルダウンメニューから「Reset」を選択し、「Save」をクリックします。
7. 左のナビゲーションパネルで、「Remote Control」->「Redirection」をクリックします。
8. 「Use Serial Redirection」を選択し、「Launch Remote Console」をクリックします。

ホストがリセットされると、シリアルコンソールにメッセージが表示されます。リセットアクティビティーが完了するまで数分かかります。ok プロンプトが表示されたら、次の手順に進みます。

9. ok プロンプトで、インストール方法に適したブートメディアからブートします。

詳細は、次の場所にある *Oracle Solaris 11* システムのインストールを参照して、インストールオプションを比較してください。

<http://www.oracle.com/goto/solaris11/docs>

OpenBoot プロンプトで入力できる有効なブートコマンドのリストについては、次を入力してください。

```
ok help boot
boot <specifier> ( -- )    boot kernel ( default ) or other file
Examples:
  boot                    - boot kernel from default device.
                          Factory default is to boot
                          from DISK if present, otherwise from NET.
  boot net                - boot kernel from network
  boot cdrom              - boot kernel from CD-ROM
  boot disk1:h            - boot from disk1 partition h
  boot tape                - boot default file from tape
  boot disk myunix -as    - boot myunix from disk with flags "-as"
dload <filename> ( addr -- )  debug load of file over network at address
Examples:
  4000 dload /export/root/foo/test
  ?go                    - if executable program, execute it
                          or if Forth program, compile it
```

## 関連情報

- 71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」
- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」

## Oracle Solaris OS の構成パラメータ

このトピックでは、Oracle Solaris OS の初期構成中に指定する必要がある構成パラメータについて説明します。

パラメータ	説明
<b>Language</b>	表示された言語の一覧から番号を選択します。
<b>Locale</b>	表示されたロケールの一覧から番号を選択します。
<b>Terminal Type</b>	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。
<b>Network?</b>	「Yes」を選択します。
<b>Multiple Network Interfaces</b>	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。不明な場合は、一覧の先頭を選択します。
<b>DHCP?</b>	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
<b>Host Name</b>	サーバーのホスト名を入力します。
<b>IP Address</b>	この Ethernet インタフェースの IP アドレスを入力します。
<b>Subnet?</b>	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。
<b>Subnet Netmask</b>	Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。
<b>IPv6?</b>	IPv6 を使用するかどうかを指定します。不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。
<b>Security Policy</b>	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。不明である場合は、「No」を選択します。
<b>Confirm</b>	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、続行します。
<b>Name Service</b>	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。  「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。
<b>NFSv4 Domain Name</b>	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system.」を選択します。
<b>Time Zone (Continent)</b>	該当する大陸を選択します。
<b>Time Zone (Country or Region)</b>	該当する国または地域を選択します。
<b>Time Zone</b>	タイムゾーンを選択します。
<b>Date and Time</b>	デフォルトの日付と時間を受け入れるか、値を変更します。
<b>root Password</b>	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。

### 関連情報

- Oracle Solaris OS のドキュメント
- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)

- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」

## 静的 IP アドレスの SP への割り当て

ネットワークが DHCP を使用しない場合は、SP のネットワーク設定を構成するまで、NET MGT ポートは動作しません。

**注記** - 使用しているネットワーク上で DHCP を使用できない場合は、SER MGT ポートを使用して Oracle ILOM SPM に接続し、そのネットワーク用に NET MGT ポートを構成する必要があります。78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」を参照してください。

- 77 ページの「SP にログインする (SER MGT ポート)」
- 78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」

### 関連情報

- 70 ページの「Oracle ILOM システムコンソール」
- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」
- 77 ページの「SP にログインする (SER MGT ポート)」
- 78 ページの「静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる」

## ▼ SP にログインする (SER MGT ポート)

SP がブートしたら、Oracle ILOM CLI にアクセスしてサーバーの構成および管理を行います。SP をはじめてブートしたときに、Oracle ILOM CLI プロンプト (->) が表示されます。デフォルトの構成では、root という Oracle ILOM CLI ユーザーアカウントが提供されています。デフォルトの root パスワードは、**changeme** です。Oracle ILOM CLI set /HOST/users/root password コマンドを使用してパスワードを変更します。

1. 今回はじめてサーバーの電源を投入した場合、root パスワードを変更します。

```
hostname login: root
Password:changeme ( 何も表示されません)
Last login: Mon Feb 18 16:53:14 GMT 2013 on ttyS0
Detecting screen size; please wait...done

Oracle(R) Integrated Lights Out Manager
```

```
Version 4.0.x rxxxxx

Copyright (c) 2017, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
Warning: password is set to factory default.

-> set /HOST/users/root password
Enter new password: *****
Enter new password again: *****

->
```

2. ログイン名として **root** を入力し、続けてパスワードを入力します。

```
...
hostname login: root
Password: ***** ( 何も表示されません)

Oracle(R) Integrated Lights Out Manager

Version 4.0.x

Copyright (c) 2017 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.
->
```

### 関連情報

- [15 ページの「背面パネルのコンポーネント」](#)
- [51 ページの「配線の要件」](#)
- [SPARC T8 Series Servers Administration Guide](#)
- Oracle ILOM のドキュメント

## ▼ 静的 IP アドレスを NET MGT ポートに割り当てる

NET MGT ポートから SP に接続する予定の場合は、SP に有効な IP アドレスが存在する必要があります。

デフォルトでは、サーバーは、ネットワークの DHCP サービスを使用して IP アドレスを取得するように構成されています。サーバーが接続されているネットワークが IP アドレス指定を行う DHCP をサポートしていない場合は、この手順を実行します。

---

注記 - DHCP をサポートするようにサーバーを構成するには、Oracle ILOM のドキュメントを参照してください。

---

1. 静的 IP アドレスを受け入れるように SPM を設定します。

```
-> set /SP/network pendingipdiscovery=static
Set 'pendingipdiscovery' to 'static'
```

2. SP の IP アドレスを設定します。

```
->set /SP/network pendingipaddress=service-processor-IPAddr
Set 'pendingipaddress' to 'service-processor-IPAddr'
```

デフォルトの IPv6 DHCP プロパティを変更して静的 IPv6 アドレスのプロパティ値を設定するには、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』の「[デフォルトの接続構成プロパティの変更](#)」セクションを参照してください。

### 3. SP ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipgateway=gateway-IPAddr
Set 'pendingipgateway' to 'gateway-IPAddr'
```

### 4. SP のネットマスクを設定します。

```
-> set /SP/network pendingipnetmask=255.255.255.0
Set 'pendingipnetmask' to '255.255.255.0'
```

この例では、255.255.255.0 を使用してネットマスクを設定します。使用しているネットワーク環境のサブネットでは、異なるネットマスクが必要になる場合があります。使用している環境にもっとも適したネットマスク番号を使用してください。

### 5. 保留中のパラメータが適切に設定されたことを確認します。

```
-> show /SP/network
/SP/network
  Targets:
  Properties:
    commitpending = (Cannot show property)
    dhcp_clientid = xxx.xxx.xxx.xxx
    dhcp_server_ip = xxx.xxx.xxx.xxx
    ipaddress = xxx.xxx.xxx.xxx
    ipdiscovery = dhcp
    ipgateway = xxx.xxx.xxx.xxx
    ipnetmask = 255.255.255.0
    macaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
    managementport = MGMT
    outofbandmacaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
    pendingipaddress = service-processor-IPAddr
    pendingipdiscovery = static
    pendingipgateway = gateway-IPAddr
    pendingipnetmask = 255.255.255.0
    pendingmanagementport = MGMT
    sidebandmacaddress = xx:xx:xx:xx:xx:xx
    state = enabled
```

### 6. SP のネットワークパラメータに対する変更を設定します。

```
-> set /SP/network commitpending=true
Set 'commitpending' to 'true'
```

注記 - show /SP/network コマンドをもう一度入力すると、それらのパラメータが更新されたことを確認できます。

## 関連情報

- [71 ページの「プリインストールされている OS を構成する」](#)

- 72 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM CLI)」
- 74 ページの「新規 OS をインストールする状態にする (Oracle ILOM Web インタフェース)」
- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」
- *SPARC T8 Series Servers Administration Guide*
- Oracle ILOM のドキュメント

## 自動サービスリクエストソフトウェア

Oracle 自動サービスリクエストを使用する Oracle システムは、診断プロセスを促進するために、電子障害遠隔監視データを Oracle に安全に転送します。Oracle ASR ソフトウェアは、特定のハードウェア障害が検出されたときに、Oracle サポートに自動的に通知する機能を備えており、ユーザーの代わりにサービスリクエストをオープンします。

イベント通知は一方方向で、着信インターネット接続またはリモートアクセスメカニズムは必要なく、問題を解決するために必要な情報のみを含んでいます。

サービスリクエストの受信時にパーツがディスパッチがされます。多くの場合、Oracle エンジニアは問題が存在することに気づく前に問題を解決するように尽力します。

サーバーでのサポート自動化の設定とインストールに関する詳細は、次を参照してください。

[Oracle 自動サービスリクエストのクイックインストールガイド](#)。

または、My Oracle Support アカウントにログインして、次の場所にある「Oracle 自動サービス・リクエスト (ドキュメント ID 1185493.1)」のナレッジ記事にアクセスします。

<http://support.oracle.com/epmos/faces/DocumentDisplay?id=1185493.1>。

どちらのドキュメントにも、ASR に必要なソフトウェアに関する情報、必要なすべてのソフトウェアダウンロード URL、および重要な構成ガイドラインが記載されています。

## 関連情報

- 76 ページの「Oracle Solaris OS の構成パラメータ」



## 用語集

---

### A

- ANSI SIS** 米国規格協会ステータスインジケータ規格。
- ASR** 自動サービスリクエスト。
- ASR** 自動システム回復。
- AWG** 米国ワイヤゲージ規格。

### B

- BMC** ベースボード管理コントローラ。
- BOB** オンボードのメモリーバッファ。

### C

- シャーシ** サーバーエンクロージャー。
- CMA** ケーブル管理アーム (SPARC T8-1 および SPARC T8-2)。ケーブル管理部品 (SPARC T8-4)。
- CMP** チップマルチプロセッサ。
- CRU** 顧客交換可能ユニット。

### D

- DHCP** 動的ホスト構成プロトコル。

- DMP** 動的マルチパス。
- DTE** Data Terminal Equipment (データ端末装置)。

## E

- EIA** Electronics Industries Alliance (米国電子工業会)。
- ESD** 静電放電。
- eUSB ドライブ** 組み込みユニバーサルシリアルバスドライブ。

## F

- FRU** 現場交換可能ユニット。

## H

- ホスト** Oracle Solaris OS およびその他のアプリケーションを実行する、CPU およびその他のハードウェアを備えたサーバーまたはサーバーモジュールの部分。ホストという用語は、プライマリコンピュータと SP を区別するために使用されます。SP を参照してください。
- ホットスワップ可能** 電力が供給された状態で交換可能なコンポーネントを表し、準備の必要はありません。
- ホットプラグ可能** 電力が供給された状態で交換可能なコンポーネントを表しますが、コンポーネントを取り外す準備が必要です。
- HBA** ホストバスアダプタ。

## I

- ID PROM** サーバーまたはサーバーモジュールのシステム情報が格納されたチップ。
- IP** Internet Protocol (インターネットプロトコル)。

**K**

**KVM** キーボード、ビデオ、およびマウス。複数のコンピュータで1つのキーボード、1つのディスプレイ、1つのマウスを共有するには、スイッチの使い方を参照してください。

**L**

**LDom** Oracle VM Server for SPARC によって管理される論理ドメイン。 [Oracle VM Server for SPARC](#) を参照してください。

**LwA** 音響パワーレベル。

**M**

**MAC** マシンアクセスコード。

**MAC アドレス** メディアアクセス制御アドレス。

**MSGID** メッセージ識別子。

**N**

**名前空間** 最上位の Oracle ILOM ターゲット。

**NAC 名** ネットワークデバイスコンテナ名。リモートアクセス、構成、管理に使用される物理デバイスのアドレス。 [Oracle ILOM](#) および [SDM 名](#) を参照してください。

**NEBS** ネットワーク機器構築システム (Netra 製品のみ)。

**NET MGT** ネットワーク管理ポート。サーバー SP 上の Ethernet ポート。

**NIC** Network Interface Card/Controller (ネットワークインタフェースカードまたはネットワークインタフェースコントローラ)。

**NMI** マスク不可能割り込み。

**NVMe** 非揮発性メモリー Express コントローラ。オプションの NVMe スイッチカードは、サーバーで NVMe サービスを提供します。

**NVMHCI** 非揮発性メモリーホストコントローラインタフェース。PCI Express バスデバイスから半導体ドライブ (SSD) にアクセスするための仕様。NVMe を参照してください。

## O

**OBP** OpenBoot PROM。OBP は、OpenBoot との関係を示すためにファイル名およびメッセージで使用されることがあります。

**Oracle ILOM** Oracle Integrated Lights Out Manager。Oracle ILOM ファームウェアは、各種 Oracle システムにプリインストールされています。Oracle ILOM を使用すると、ホストシステムの状態に関係なく、Oracle サーバーをリモートから管理できます。

**Oracle Solaris OS** Oracle Solaris オペレーティングシステム。

**Oracle VM Server for SPARC** SPARC プラットフォーム用仮想化サーバー。

## P

**PCI** Peripheral Component Interconnect。

**PCIe** PCI Express。高帯域幅の周辺装置および I/O デバイスをサポートする業界標準のバスアーキテクチャー。

**POST** 電源投入時自己診断。

**PROM** プログラム可能な読み取り専用メモリー。

**PSH** 予測的自己修復。

## S

**SAS** Serial Attached SCSI。

**SCC** System Configuration Chip (システム構成チップ)。

**SCC PROM** プログラム可能な読み取り専用メモリー上のシステム構成チップ。システム構成データを格納するリムーバブルモジュール。

---

<b>SDM 名</b>	簡略化されたデータモデル名。異なるタイプのサーバー間で Oracle ILOM に関するデバイス情報を一貫して提供する方法。 <a href="#">NAC 名</a> を参照してください。
<b>SER MGT ポート</b>	シリアル管理ポート。サーバー SP 上のシリアルポート。
<b>SFF</b>	スモールフォームファクタ。
<b>SP</b>	サービスプロセッサ。サーバーの SP は、サーバーの電源コードが接続および通電されていれば、ホストの電源状態にかかわらずいつでも動作し、アクセス可能な独自の OS を搭載したカードです。SP は Oracle ILOM コマンドを処理し、ホストの電源管理 (LOM) を提供します。 <a href="#">ホスト</a> を参照してください。
<b>SPM</b>	サービスプロセッサモジュール。これは、サービスプロセッサファームウェアが含まれている物理コンポーネントです。
<b>SSD</b>	Solid-State Drive (半導体ドライブ)。
<b>SSH</b>	Secure Shell。
<b>T</b>	
<b>Tma</b>	最大周囲温度。
<b>U</b>	
<b>U.S. NEC</b>	United States National Electrical Code (米国電気工事基準)。
<b>UCP</b>	Universal Connector Port (ユニバーサルコネクタポート)。
<b>UI</b>	ユーザーインタフェース。
<b>UL</b>	Underwriters Laboratory Inc.
<b>UTC</b>	協定世界時。
<b>UUID</b>	Universal Unique Identifier (汎用一意識別子)。
<b>W</b>	
<b>WWN</b>	World Wide Name。SAS ターゲットを一意に特定する番号。



# 索引

---

## あ

- アース線, 66
- インストール
  - Oracle Solaris OS (Oracle ILOM CLI の使用), 72
  - Oracle Solaris OS (Oracle ILOM Web インタフェースの使用), 74
- 奥行仕様, 17
- 音響仕様, 20

## か

- 環境仕様, 19
- クリアランス
  - 通気, 20
  - 保守, 20
- 高度仕様, 19, 19
- 互換性のあるラック, 30, 30
- コンポーネント
  - 背面, 15

## さ

- サーバー
  - 概要, 12
  - 設置, 38
- サーバーの電源投入, 65, 69
- サービスプロセッサ (SP)
  - IP アドレスの割り当て, 76
  - SER MGT ポートを使用したアクセス, 77
  - 静的 IP アドレスの割り当て, 77
  - パスワードの割り当て, 77
- 最小のケーブル接続, 51
- サイト計画仕様, 17
- システムコンソール, 70
- 湿度仕様, 19

- 自動サービスリクエスト, 80
- 重量仕様, 17
- 出荷用キット
  - CMA, 23
  - 出荷用キットの内容, 23
  - 出荷用梱包箱の仕様, 17
  - 出荷用ブレース
    - 下部背面の取り付け, 48
    - 下部背面の取り外し, 49
    - 上部背面の取り付け, 46
    - 取り付け, 44
    - ねじ、正しいものの特定, 46
- 仕様
  - 音響, 20
  - 確認, 17
  - 環境, 19
  - 高度, 19
  - サイト計画, 17
  - 湿度, 19
  - 重量, 17
  - 衝撃, 19
  - 振動, 19
  - 高さ, 17
  - 電気, 18
  - 幅, 17
  - 物理, 17
- シリアルケーブル用のアダプタ, 58
- シリアル端末設定, 67
- シリアル端末のパリティ、なし, 67
- シリアル端末のハンドシェイク、なし, 67
- シリアル端末のビット設定, 67
- シリアル端末のボーレート, 67
- 診断、実行時, 70
- 振動仕様, 19
- スタンバイモード, 65

スタンバイモード、AC 接続時, 51  
ストップビット, 67  
スロット、ポート、および LED の図, 15  
静的 IP アドレス  
NET MGT ポートへの割り当て, 78  
SP への割り当て, 77  
設置  
サーバーをラックへ, 38  
タスクの概要, 11  
ラックマウントキット, 33

## た

高さ仕様, 17  
注意事項、取り扱い, 25  
通気  
ガイドライン, 20  
クリアランス, 20  
通気のガイドライン, 20  
電気仕様, 18  
電源コード、配線, 65  
電源ボタン  
位置, 14  
転倒防止脚または転倒防止バー, 32  
電力計算機能, 18  
電力仕様, 51  
ドライブ, 12  
取り扱い上の注意, 25  
取り付け  
CMA, 40, 42  
出荷用ブレース, 44  
ラックマウント部品, 37

## な

ねじ  
出荷用ブレース, 46

## は

配線  
CMA に固定, 61  
Ethernet ポート, 60  
NET MGT ポート, 59

SER MGT ポート, 59  
シリアルデータケーブル用のアダプタ, 58  
データ, 61  
電源コード, 65  
必要な接続, 51  
背面パネル  
コンポーネント, 15  
幅の仕様, 17  
ビデオコネクタ  
説明, 12  
前面, 14  
背面, 15  
ピン配列, 57  
ピン配列  
Ethernet ポート, 53, 56  
NET MGT ポート, 55  
SER MGT ポート, 54  
USB ポート, 53, 53  
ビデオコネクタ, 53, 57  
物理, 17  
部品、ラックマウント, 35  
プリインストールされた Oracle Solaris OS、構成,  
71  
放熱量仕様, 18  
ポート、スロット、および LED の位置 (図), 15  
ポート、スロット、および LED の図, 15  
保守用クリアランス, 17  
ホットプラグ USB ポート, 51

## ま

メッセージの保存、制限, 51

## や

用語  
スライドレール構成部品, 33

## ら

ラック  
互換性, 30  
固定, 32  
注意, 30



取り付け穴、サポート, 30  
ラック、互換性, 30  
ラック、サポート, 30  
ラックマウント, 29  
安全の警告, 30  
サーバーの準備, 27  
転倒防止脚または転倒防止バー、伸ばす, 32  
部品, 35  
部品の取り付け, 37  
ラックの固定, 32  
ラックマウントキット  
CMA, 33

**A**

admin ログイン、パスワードの設定, 77  
ASR, 80

**C**

CMA, 23, 33  
キット, 40  
ケーブルの固定, 61  
取り付け, 40, 42  
必要な部品, 40

**D**

DHCP, 59  
DIMM  
DIMM の説明, 12

**E**

ESD に関する注意事項, 25  
Ethernet ポート, 12  
配線, 51  
ピン配列, 51  
Ethernet ポートのピン配列, 56

**I**

IP アドレス、SP, 76

**L**

LED、ポート、およびスロットの図, 15

**N**

NET MGT ポート  
DHCP, 59  
位置, 59  
静的 IP アドレス, 59  
静的 IP アドレスの割り当て, 78  
配線, 59  
ピン配列, 55, 59

**O**

Oracle ILOM システムコンソール, 70  
Oracle Solaris OS  
構成パラメータ, 76  
新規 OS のインストール (Oracle ILOM CLI), 72  
新規 OS のインストール (Oracle ILOM Web インタフェース), 74  
プリインストールされた OS の構成, 71

**R**

RJ-45 ケーブル, 51

**S**

SER MGT ポート  
初回の電源投入, 67  
配線, 67  
ピン配列, 54  
SER MGT ポートで使用しないモデム, 58  
SP へのログイン  
SER MGT ポートの使用, 77

**U**

USB ポート, 12  
出力電源, 53  
前面, 14  
背面, 15  
ピン配列, 53

